

2024 年度

事業計画書

社会福祉法人 香南会

目 次

香南会事業運営方針		P 1 ~ 2
業務管理体制に基づく業務監査		P 3
◎総務部		P 4
◎経理部		P 5
◎人事部		P 6
◎教育部		P 7
◎登録支援機関(特定技能・介護)		P 8
◎栄養管理部		P 9 ~ 10
◎防災安全危機管理部		P 11
◎システム部		P 12 ~ 13
◎請求管理部		P 14
◎事故対策室		P 15
◎総合福祉ゾーンはまゆうの里		P 16 ~ 34
◎総合福祉ゾーンオークの里		P 35 ~ 43
◎総合福祉ゾーンキセキレイの里		P 44 ~ 52
◎総合福祉ゾーンもとかかの里		P 53 ~ 70
◎総合福祉ゾーン天空の里		P 71 ~ 78
◎総合福祉ゾーンやだけの里		P 79 ~ 86
◎赤とんぼの里		P 87 ~ 93

◎特別養護老人ホーム 安寿の里		P 94 ~ 95
◎新居浜事業所		P 96 ~ 101
◎専修学校 香南学園		P 102 ~ 103
◎特別養護老人ホームおおいずみの里		P 104 ~ 105

2024 年度事業運営方針

法人の基本理念の下、ご利用者・ご家族の皆様に安心していただけるような生活環境の創造に努め、社会福祉法人の使命として地域社会の福祉の充実・発展に寄与すべく事業運営に努めてまいります。

また、法人として将来を見据えた施設整備、人材育成に努めてまいります。

感染症対策には引き続き取り組みながら、2024 年度は次のとおり重点目標を定め、取り組んでまいります。

1 質の高いサービスの提供

- ・ 4 大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる
- ・ データを活用した多職種連携による質の高いサービスの提供
- ・ 看取りケアの体制を整え内容の充実を図る
- ・ 施設長が中心となり各事業所のマネジメントに取り組む
- ・ 職員教育の充実

2 経営基盤の安定に向けた取り組み

- ・ 各事業所は運営目標を明確にし、着実に取り組むとともに、幹部職員の経営意識向上を図り、施設長は各事業所のマネジメントを行う

3 施設整備の推進

- ・ びわの里の移転新築・・・本年度移転開設にむけ事業推進する
- ・ 江戸川区特別養護老人ホーム整備事業・・・補助金申請手続きを進める

- ・香南赤岡苑の改築・・・本部西側敷地に移転建築

4 人材育成・確保対策

- ・人材確保対策（各職種）については様々な媒体を用い継続的に実施
- ・インターンシップから採用につなげる取り組み
- ・研修参加や資格取得を引き続き促進する
- ・外国人介護職員の介護実践力の向上を図る

5 専修学校香南学園の運営

- ・介護福祉士養成機関としての使命を果たすため、介護福祉士資格取得に向けた勉学の強化と生活の支援に取り組む

6 働きやすい職場環境

- ・各種休暇制度等の利用促進
- ・電子決済や web 会議の推進

7 危機管理対策の推進

- ・事業所ごとに防災（特に水害）や防犯に取り組み、BCP 等を駆使した業務継続に向けた実践を進める

8 地域との連携

- ・社会福祉法人の使命として地域社会のニーズ把握と地域資源やネットワーク等を活かした取り組みの推進

業務管理体制に基づく業務監査

基本方針

法人が運営する各種事業について、施設長及び副施設長による業務監査（関係法令に基づいた事業の運営状況の確認と評価）を行うことで、法令を遵守し業務を適正に遂行する。また、運営指導マニュアル等に沿って業務監査を実施し、関係法令等の内容を的確に把握する機会とする。

年度目標

- 1 関係法令を遵守した適正かつ安定した事業運営を行う。
- 2 コンプライアンス（法令遵守）の向上を目指し、関係法令等についてより一層の理解を深める。
- 3 主任、管理者等が運営に対して高い意識を持ち、携わることができるよう指導、助言を行い育成を図る。

総務部

基本方針

法人全体の事務業務を取り扱う部署として、法人の事業運営方針に従い各部署と連携を図り丁寧、迅速、的確に業務遂行に努めると共に、常に創意工夫、能力向上を念頭におき業務にあたります。

年度目標

- 1 円滑な法人運営ができるよう執行部の指示に従い業務に取り組む
 - (1) 社会福祉法等関係法令などの動向に、迅速に対応し知識を深め、法人運営に活かせるように努める。
 - (2) 社会福祉法に則り、常に迅速、正確な情報公開に努める。
 - (3) 業務管理体制組織図に従い、迅速かつ的確な事務処理に対応できるように努める。
 - (4) 庶務業務の省力化に努める。
- 2 施設整備事業等の推進
 - (1) 香南赤岡苑移転改築計画について関係部署と連携を図り、円滑に計画を推進するとともに、補助金申請手続きをはじめ諸手続きの迅速的確な対応に努める
 - (2) グループホームびわの里高台移転事業について、速やかな事業完成を目指し、諸手続き等遅滞なきよう努める。
 - (3) 江戸川区特別養護老人ホーム整備事業について、東京都補助内示後の諸手続きについて遅滞なく行い円滑な事業推進に努める。
 - (4) 東京都特別養護老人ホーム等の公募事業および整備用地の情報収集等に努める。
- 3 事業所内保育所やまもも
 - (1) 定員増員および移転改築計画について、円滑に計画推進できるように努める。
 - (2) 事故防止、職員の質向上を目指し、外部研修に参加するとともに自己研鑽に努める。

経理部

基本方針

法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析を可能とするとともに、外部への情報公開に資するものとして、関係法令に従い正確な財務諸表を作成する。

年度目標

1 会計監査について

- (1) 会計監査人の監査につき、会計基準との整合性はもとより、法令順守を徹底し、適切に対応にあたる。

2 運営収支および財政状態の把握について

- (1) 財務諸表作成に関して、実施する事業の区分を設け、収支状況を明らかにし、資料を用いて分析を行う。また、分析結果を会議等の場へ提供し、幹部職員が経営管理・戦略を行う上で、役立てるものとするができるよう努める。適時に、関係施設長等とヒアリングを実施し、共同して収支改善にむけ努める。

3 業務継続に向けた取り組み・文書の電磁的記録の推進について

- (1) 災害等が発生した場合であっても、必要な業務が継続的に実行できるような体制を構築、文書作成負担軽減や手続きの効率化による迅速化や情報共有を確保するため、文書の電磁的記録（電子決裁等）の推進を図る。

4 データ入力自動化の推進

- (1) インボイス導入や電子帳簿保存法への対応により会計処理業務が増加する中で、データ入力業務を効率的に行っていくことにより、入力時間の短縮や入力ミスの削減に努める。

人事部

基本方針

生産年齢人口が減少し、人手不足が深刻化する福祉現場において、多様な働き方、柔軟な勤務形態など踏まえ、労働環境の整備を推進することで、職員の離職防止・定着促進に繋がります。また、令和 6 年度介護・障害福祉サービス報酬改定に向けて、全産業平均と遜色のない処遇改善の実現のため賃金等の引き上げなど人材確保・定着のための取り組みを強化します。

年度目標

1 持続的な人材確保

- (1) 採用ツール（求人案内、パンフレット、動画、CM、インターンシップ等）のリニューアルを図り、適切な広報媒体等を通じて、人材の安定的な確保と定着に取り組めます。また、採用ツールを有効に活用することで、江戸川区特別養護老人ホーム整備事業、香南赤岡苑移転改築計画などの施設整備の推進を図ります。
- (2) 外国人介護職員の離職防止・定着に向けて適正な処遇や互いに良好な人間関係を構築できる環境整備、生活面でのサポート体制の拡充を図ります。

2 働きやすい職場環境づくり

- (1) 「働き方改革関連法」等で要請される事項に適切に対応し、高年齢者、女性、障害者など多様な人材の活用に向けた取組を促進し、ハラスメント防止対策や労働災害防止対策を徹底するとともに、誰もが働きやすい職場環境の整備に努めます。
- (2) ICT 等の有効活用による、情報共有・電子申請など事務作業を軽減し、生産性の向上を図り、働きやすく魅力ある職場づくりに取り組めます。

教育部

基本方針

ご利用者へのサービスの質を向上させるため、資格取得や介護技術向上のための教育の充実を図ります。また、外国人介護職員の介護技術向上を図るため、日本語能力の向上ならびに充実した学習計画、OJT(On the Job Training＝職場内訓練)の推進に向けて取り組みます。

年度目標

1 質の高いサービスの提供

- (1) 各事業所で必要とされる研修内容を検討し、充実した研修が実施できるよう努める。
- (2) 4 大目標等の取り組み推進を継続し、介護のプロフェッショナルを育成することで、現場での事故防止に繋がるよう努める。

2 人材育成

- (1) OJT 教育を充実させ、介護職員の介護技術向上を図ると共に、指導育成担当者(リーダー層)の管理能力が高められる職場環境の構築を目指す。
- (2) 介護支援専門員及び介護福祉士試験の合格者増加に向け、受験者のニーズに沿った研修内容の提供に努める。
- (3) 外国人介護職員の日本語能力向上及び介護福祉士取得のための学習計画を立案し、有資格者の増員に努める。
- (4) 外国人介護職員が安心して働ける職場として適正な在留管理や支援を行い、就労の定着を図る。

登録支援機関(特定技能・介護)

基本方針

外国人介護職員の所属機関として培った知識と経験を生かし、登録支援機関として役割を地域から求められた際には、特定技能外国人に対して適切な支援の実施、在留管理を行います。

年度目標

1 支援体制の構築

- (1) 支援委託元に対し受入に関しての、手続き等の援助や助言が適切に行えるよう努める。
- (2) 法改正や制度の最新情報を把握することで、適切な対応をする。
- (3) 出入国在留管理局への届出等に不備がないよう留意する。

栄養管理部

基本方針

リハビリテーション、口腔、栄養の一体的な取り組みを行うことの重要性が示されているなか、多職種と連携した栄養管理のさらなる充実を図る。

年度目標

- 1 筋肉量の減少や筋力の低下、また、摂食機能の低下と口腔衛生状態悪化が低栄養と関連することをふまえ、専門職としての視点を持ち、栄養ケア・マネジメントの質の向上に努める。
 - (1) 必要な情報を正確に収集し、速やか、かつ、適切な評価や介入を行う。
 - (2) 物価や光熱水費高騰を受け、費用対効果を意識しつつ、利用者に提供する食事の質を確保する。
- 2 新調理システムの調理・保存法の導入を進め、事業所の特性に合わせた適切なシステムを組み立てて運用する。
 - (1) 作業及び調理の工程をマニュアル化する。
 - (2) 災害や感染症など非常時の食料として備える。

栄養管理部 用語解説

リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化

：令和3年度介護報酬改定より、自立支援・重度化防止の取組として、制度の目的に沿って、質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進するもの。

低栄養：食欲の低下や、噛む力が弱くなるなどの口腔機能の低下により食事が食べにくくなるといった理由から徐々に食事量が減り、身体を動かすために必要なエネルギーや、筋肉、皮膚、内臓など体をつくるたんぱく質などの栄養が不足している状態のことをいう。

栄養ケアマネジメント：栄養状態のリスクを判定（スクリーニング）し、その評価・判定（アセスメント）のもとに栄養ケア・栄養プログラムを計画・実施する。これによる栄養状態の変化の観察（モニタリング）から、さらに評価し、この結果をみて改善や調整を加えていく（フィードバック）過程。

新調理システム：従来の調理方式であるクックサーブに加え、クックチル、クックフリーズ、真空調理の調理法をさす。

クックサーブは、当日、食事時間ごとにその都度調理を行い、すぐに供する調理法のこと。

クックチルは、計画的に加熱調理した食材を急速冷却後に、チルド（0～3℃）状態で一定期間保存し、喫食時間に合せ再加熱を行い盛り付け料理を提供するシステムである。

クックフリーズの場合、工程はクックチルシステムと同じだが、冷却と保存の温度を、食材の芯温ベースで-18℃以下とする。真空調理とは、一例をあげると素材を下ごしらえした後に、素材を調味液と一緒に真空包装し、そのまま温度と時間管理が正確に行える加熱機器にて低温加熱する調理法である。

防災安全危機管理部

基本方針

法人が掲げる基本理念を念頭に、常に危機管理意識をもち業務を推進する。各事業所と連携し情報を共有し、災害発生時の利用者対応に取り組む。安全運転の啓発を行い公用車両の維持管理を強化する。定期的に施設の老朽化点検を実施し、施設設備の維持管理に努める。

重点項目

- 1 防災訓練や防災関係の研修に積極的に参加し、地域との連携に努める。
BCP（事業継続計画）の運用計画や見直しを行い、実際の災害発生時を想定した避難訓練を行う。本年度より導入した通信アプリ・インサークルを使った連絡訓練や呼集訓練を行い災害時に対応できる体制を整える。
- 2 南海トラフ地震に対する知識や情報を行政や地域社会と共有し、2024年は総合福祉ゾーンもとちかの里の南海トラフ地震優良事業所認定の取得更新を目指す。各事業所で防犯講習、防犯訓練を行い防犯に対する意識を高める。
- 3 各施設の老朽化点検や消防用設備点検を定期的に行い設備機器の維持管理に努める。また施設周辺の環境整備を行う。
- 4 運転手、宿直員との面談を定期的に行い、健康状態の把握や気軽に業務上の相談ができる環境を整え、職員が定着できるよう努める。
- 5 法人車両が安全に走行できるよう整備状況を把握し、車両管理を行う。
また車両の適正な運行を図るため、運行管理者と連携し、運転に従事する職員の健康面や酒気帯びの有無の確認を励行し、安全な運転の確保に取り組む。

システム部

基本方針

システム業務

業務システム全般の効率化と安定稼働につながるよう努める。また最新技術について随時導入可能であるかを見極めるとともに、報道こそ少なくなったものの、未だ減少しないランサムウェア等マルウェアの脅威に充分配慮したシステム構築となるよう本年度も計画を見直しつつ、セキュリティー上の安全を第一とした計画になるよう注意を払う。

年度目標

1 システム担当

- (1) 事業継続可能な持続性を持った、システム設計の随時見直し。
- (2) 次期システム（非境界防御型システム）に向けたネットワーク構成について見直しつつ、できるだけコストがかからないものを目指す。
また、既存の設定項目を見直し、現状のシステム構成でもできるセキュリティー向上対策を行う。
 - ・PC 端末に Windows Update が実施されるような仕組みはあるものの、新技術等にて、より確実に実施できるものがないか情報等を注視する。
 - ・Administrator アカウント使用の厳格化（使用ログの内部監視）等。
- (3) 職員へ PC 操作技術・セキュリティー意識向上を目的とした教育を実施する。
- (4) 決裁書・諸手続きの電子化をさらに進める。
- (5) 介護ロボットや、職員の業務負担軽減可能な ICT 機器の業界動向を注視し新技術の把握に努める。

2 デザイン担当

- (1) 担当人員の確保し、広報誌・求人広告業務を再開する。

システム部 用語解説

ランサムウェア

ランサムウェアとは、「Ransom（身代金）」と「Software（ソフトウェア）」を組み合わせた造語。身代金の要求を目的とした悪意のあるプログラムで、マルウェアの一種と定義できる。

マルウェア

マルウェア (malware) とは、英語のmalicious（マリシャス：悪意のある）に software（ソフトウェア）の2つの単語が組み合わさった造語。ウイルス（コンピュータウイルス）がユーザーの情報端末に不利益をもたらす悪意のあるプログラムやソフトウェアを総称する言葉。

非境界防御型システム

「境界防御型システム」が自法人ネットワークと外部ネットワークの境界線でセキュリティ脅威を阻止する防御のことを意味しますので、これを使用しない防御方法になります。一般的にファイアウォールやIDS（不正侵入検知システム）やIPS（不正侵入防御システム）が境界防御となります。

Administrator（アドミニストレーター）

Administratorは管理者のことであり、コンピュータやネットワークなどのインフラを良好な状態に保つ責務を負っています。

Windows Update（ウインドウズアップデート）

Windows Updateとは、Windowsの機能の一つで、開発元のマイクロソフト（Microsoft）社からインターネットを通じて自動的に修正・更新プログラムを入手し、自らに組み込んで修正を適用するシステムのこと。月例で配信される。

請求管理部

基本方針

法人が運営する施設等の請求業務（介護報酬、支援費、措置費、県費など）について、各々の法令に基づき正しく行えていることを確認、把握しコスト意識を心掛け安定した収入を確保する。

年度目標

- 1 毎月の請求業務について
 - (1) 各施設等からの実績情報を元に、請求ソフト（WINCARE）等に正しく入力できているか、入力漏れはないかなど正確に請求が行われていることを確認し、返戻や過誤がないように努める。
- 2 請求内容（体制、加算）について
 - (1) 2024年度はトリプル改正となるので各事業所の体制や算定している加算等の要件を把握し多方面から分析し継続して加算を算定できる、また新たに算定可能な加算を提案するなど安定した収入確保を目標に努める。
- 3 正確且つ迅速な業務遂行について
 - (1) 定期的な制度改正で算定できる加算などに変動があり、また人事異動に伴い事業所の管理者や相談員等が変わることも視野に入れ、常に正確迅速な請求業務を遂行するために事業所の形態別に研修会や、請求ソフト（WINCARE）等を上手に活用することで操作誤りも防ぐことができるという点を考慮し、操作説明会などを開催し各施設等（現場）と請求管理部が一体となって円滑な業務遂行に努める。また、関係職員（相談員、管理者など）を対象に各保険制度以外に、生活保護法や社福減免、原爆助成金など収入に関わる制度についての研修会等も開催し、収入に関する知識を深め経営意識の向上に努める。
- 4 報酬等及び利用者負担金の回収管理について
 - (1) 介護報酬等では返戻などにより請求漏れがないように、利用者負担金では長期未納とならないよう留意し関係部署と連携を取りながら回収管理を行う。

事故対策室

基本方針

法人における医療介護事故に対する専門機関として、法人全体のリスクコントロールに努め、各ゾーンや事業所におけるリスクマネジメントを十分に行えかつ事故予防を推進する体制を整える。また、他部署や各プロジェクトチームとの連携によって、より質の高いケアの提供に寄与するとともに医療介護事故の低減を目指す。

年度目標

- 1 医療介護事故の低減を図ることによって、質の高いケアの提供に寄与する。
 - (1) 法人全体の事故の傾向と対策の把握
 - ① 現状情報収集システムでの事故分析と対策の立案
 - ② 個々の重大事故の検証と対策の周知・啓発
 - ③ リスクマネジメント体制の構築や必要に応じた改善
 - (2) 各ゾーン・事業所におけるリスクマネジメント活動の強化
 - ① リスクマネジメント意識を持った介護方法の推進
 - ② 必要に応じた現地調査と管理者への結果と対策のフィードバック
 - ③ 管理者・主任向け研修の開催
 - ④ 現任研修における事故分析手法や対策の周知・啓発
- 2 事故予防・低減に関するアセスメント能力の向上やリスクマネジメント意識を持った介護の実践を目指し、各プロジェクトチームと連携した取り組みや支援を行う。

総合福祉ゾーン

はまゆうの里

- ・ 総合福祉ゾーンはまゆうの里 ……P18
- ・ 特別養護老人ホーム 香南赤岡苑 ……P19
- ・ デイサービスセンター 陽だまり ……P20
- ・ 生活介護事業 いきいき ……P21
- ・ ケアハウス ぬくもり ……P22
- ・ ヘルパーステーションはまゆう ……P23
- ・ ヘルパーステーションうみ風 ……P24
- ・ ヘルパーステーションはま風 ……P25
- ・ ケアプランセンター はまゆう ……P26
- ・ グループホーム せんだんの里 ……P27
- ・ グループホーム きんもくせいの里 ……P28
- ・ グループホーム ゆうりこう ……P29
- ・ グループホーム ふなとの里 ……P30
- ・ 老人保健施設しお風 ……P31
- ・ 老人保健施設しお風通所
リハビリテーション ……P32

・ 訪問看護ステーションあおぞら ……P33

・ 訪問看護ステーションキセキレイ ……P34

総合福祉ゾーン はまゆうの里

基本方針

はまゆうの里では、人材育成を中心におき、事業運営の要となる主任級の育成、外国人介護職員の介護実践力の向上を図り、知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な研修、職員教育を実施するとともに、義務化される生産性向上委員会を設置し、客観的視点から業務改善を進め、利用者の皆様へのサービスの質の向上と、職員の業務負担軽減、労働環境の改善を両立すべく、情報技術を活用した業務効率化、看取りケア体制の充実、異常気象に対応した風水害対策などの喫緊の課題に取り組みます。

また、事業推進においては、本年度の着工が予定されている香南赤岡苑の増床へ向け、地域の社会資源のひとつとして、地域社会のニーズをしっかりと受け止め、広く情報発信を行い新規利用者の獲得を目指します。

目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。

特別養護老人ホーム 香南赤岡苑

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 階層別研修への参加を推進し個々の知識、技術の更なる向上を図る。
 - (2) マニュアルに沿って外国人職員を育成し、統一したケアを提供する。
 - (3) 年2回の職員面談にて課題や目標を可視化することで、達成状況の把握に努め、自己啓発を支援する。
 - (4) 介護福祉士、介護口腔ケア推進士、介護支援専門員等の勉強会へ積極的に参加し資格取得を目指す。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生産性向上委員会を月1回開催し、ICT機器の活用、介護職員の負担軽減等について精査検討し、業務改善に取り組む。
 - (2) 基本的な業務内容の見直しを進めるとともに、利用者個々の特性、状態に応じたケアプランを立案し、安心安全で効率的な介護を提供する。
 - (3) 満足度調査を年1回以上実施し、実施結果をケア内容の見直し、業務改善につなげる。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 四大目標の実現に向けた取り組みを継続する。
 - ① 事故発生時の問題点を洗い出し、再発防止策を周知することで重大事故及び皮下出血事故の発生件数を前年度以下にする。
 - ② 口腔ケア及び認知症ケアに関する勉強会に年1回以上参加することで職員全体の専門的な知識、技術の向上を図る。
 - (2) 利用者、家族が安心できるような看取り介護を提供する。
 - ① 看取り委員会を毎月開催し、振り返りを行うことでケアの向上を図る。
 - ② 多職種にて個々の病状に応じたケア内容を検討し、肉体的、精神的な苦痛を緩和するケアの実現を目指す。
 - (3) 風水害対策の強化を図る。
 - ① 継続的に訓練を実施することで、災害時の役割を各職員へ周知する。
 - ② 研修への参加を行い防災の知識を深める。
 - ③ 定期的に防災マニュアル、避難経路の見直しを図る。

デイサービスセンター 陽だまり

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた研修計画を立てる。
 - ① 法人内外の研修に参加し、技術や知識の向上を図る。
 - ② 伝達講習を実施し情報を共有する。
 - ③ キャリアアップ等について定期的に職員面談を実施する。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生産性向上委員会設置への勉強会等を開催し職員への浸透を図る。
 - (2) 生産性向上委員会を定期的で開催し、現場の課題を「洗い出して」「分析して」業務改善に取り組む。
 - ① 改善にあたっては優先度を付け、必要性、効果の高いものから取り組む。
 - ② 業務の明確化と役割分担、手順書（マニュアル）の作成見直し、OJT 職員教育の仕組みづくりを通して改善を推進する。
 - ③ 改善については適切な時期に評価を行い、PDCAサイクルに沿って改善活動を継続させる。
 - (3) 職場環境の整備、事故、ヒヤリハット等の業務上の気付きから必要な改善を行なう。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - ① 個々の心身機能に応じた通所介護計画書を作成し、統一した対応とチームケアを実践する。
 - ② 家族や関係機関との連携を図り情報を共有する。
 - (2) 風水害対策の強化について、防災委員会で取り上げられた内容を事業所内で周知し、防災、防犯意識の向上を図る。
 - (3) 働きやすい職場環境づくりに取り組む。
 - ① 職員間の声掛けを増やし、協力、助け合いの意識を高める。
 - ② 円滑に業務を遂行するために、業務マニュアルを定期的に見直す。
 - ③ 年間計画に沿って有給休暇を取得する。

生活介護事業いきいき

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた研修参加を行う。
 - ① 各職員の経験年数に応じ、外部研修に年1回以上参加する。
 - ② 計画的にサービス管理責任者等の有資格者を育成する。
 - (2) 障害特性に応じた支援方法の習得を図る。
 - ① 各職員が四半期に1度以上、事例検討会を開催する。
 - ② 統一したケアを目指し職員会で共有を図り、その都度ケアマニュアルの修正を行う。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 介護における生産性向上について浸透を図る。
 - ① 生産性向上委員会について勉強会への参加、職員会での周知を行う。
 - ② 事故やヒヤリハット等の課題を元に必要な業務改善を行う。
 - (2) 業務の明確化と役割分担を行い、職場環境の改善を進める。
 - ① 環境整備を担当制にし、職員が自律し気付きを得て行動できるようにする。
 - ② 各種マニュアルを見直し、偏りの見える化と仕事の標準化を図る。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) BCP等に基づいて安全な職場環境を作る。
 - ① 各事業所と連携して実践的な防災訓練を実施する。
 - ② 災害時に臨機応変な対応が行えるよう、防災、感染症マニュアルの周知徹底を図る。
 - (2) 風通しの良い職場作りを目指す。
 - ① 職員と定期的に面談の機会を設け、相談しやすい環境設定を行う。
 - ② 各種休暇制度の利用を促進し職員の定着を図る。

ケアハウス ぬくもり

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた研修計画を立て技術の向上を図る。
 - ① 個々のレベルに応じた外部、内部研修へ参加しスキルアップを図る。
 - ② 研修を受けた職員は伝達講習を行い、事業所内での情報共有を図る。
 - (2) 定期的に職員面談を実施し意見交換を行う。
 - ① 個々のレベルを評価し目標を設定する。
 - ② 目標に達しているかチェックシートを活用し評価を行う。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) プロジェクトチームを立ち上げ担当者を決め生産性向上委員会を定期的
に開催する。
 - ① 現場の課題を洗い出し分析して業務改善に取り組む。
 - ② 事故、ヒヤリハット等の業務上のエラー、気付きから必要な改善を行う。
 - (2) 介護現場の 3M を無くし業務改善を図り、P D C A サイクルを元に習慣
化させていく。
 - ① 5S 活動を実施し職場の環境整備を行う。
 - ② 業務の明確化と役割分担を行い、タスクシェアリングの考えで業務の集
中を防ぐ。
 - ③ 不要な項目や重複している項目がないか見直しを行い、記録、報告様式
の工夫を図る。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 多職種が連携し、入居者が過ごしやすい環境整備、ケア方法を統一した
ケアを行う。
 - ① 入居者の状態把握を行い個々に応じたサービス提供を行う。
 - ② ヒッププロテクター着用を推進し骨折予防に努める。
 - ③ 情報共有を行い、抜かりがないように情報の周知徹底を行う。

ヘルパーステーション はまゆう

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 職員個々の質を上げることで事業所全体の役割意識向上を目指す。
 - (2) サービス提供責任者、管理者を育成し事業所の体制強化を図り、各種制度、法令関係の研修に参加し知識を深める。
 - (3) 個別年間研修計画に沿って研修に参加し、研修修了後は全職員に伝達講習を行う。

- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 業務改善の必要性を理解し質の向上へと結びつける。
 - (2) チームケア、情報共有の効率化に取り組み、質の高いケアを提供する。
 - (3) 定期的に委員会を開催し業務内容の見直しを行い、PDCAサイクルを用いて業務改善を推進する。

- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 非常災害、感染症が発生した際の体制を確立する。
 - ① 非常災害と感染症発生に関する研修、訓練を年間2回以上実施する。
 - ② 非常災害時に備え地域等の防災訓練に参加し、災害時に迅速に行動できるよう防災意識を高める。
 - (2) 働きやすく活気ある職場づくりに務める。
 - ① 全職員に年間有給取得計画を作成し、リフレッシュできるように5日以上の有給休暇を取得する。
 - ② 定期的に勉強会、面談を行い、業務改善に取り組み職員の定着を目指す。

ヘルパーステーション うみ風

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 全職員が個人研修計画に基づき施設内外の研修に参加し、得た知識を職員会で共有することで、全体の質の向上を図る。
 - (2) 管理者、サービス提供責任者は関係法令の研修に参加し知識を得る。
 - (3) 年間計画に沿って毎月勉強会を開催し、訪問介護員として必要な知識を習得する。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 全職員が問題意識を持ち、業務改善に向けて取り組みを行う。
 - (2) 安全、正確、効率的に行えるように、毎月の職員会で業務内容を検討し改善を図る。
 - (3) P D C Aサイクルに沿って業務改善を図る。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 利用者個々に応じたケアの提供を強化する。
 - ① 多職種と連携し利用者個々の援助目標を明確にし、適切なサービスを提供する。
 - ② 業務手順を見える化し、安定したサービスが提供できるよう努める。
 - (2) 定期的に面談を行い、職員個々のモチベーションの変化に早期に対応し職員の定着を目指す。
 - (3) 非常災害時に備え体制を強化する。
 - ① 年2回、災害時と感染症の訓練、研修を事業所で行う。
 - ② 訪問先の施設や地域の防災訓練に参加し非常災害時に備える。

ヘルパーステーション はま風

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 管理者、サービス提供責任者を育成し、事業所の体制強化を図る。
 - ① 介護保険制度についての勉強会を実施する。
 - ② 職員指導、育成に重点をおき中堅、ベテラン職員を増やしていく
 - (2) 職員個々の資質向上を図るとともに、訪問介護員としての専門性、実践力を身につける。
 - ① 職員個々の目標に沿った年間研修計画を立て、施設内外の研修に参加する。
 - ② 毎月の職員会にて研修報告や勉強会を実施し、職員間で知識、技術の共有を図り実践に繋げる。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 業務の改善活動に、ひとり一人が主体的に取り組むことを目指す。
 - ① 業務の手順書を作成し統一したサービスを行う。
 - ② 業務の振り返り、課題を共有し、改善について継続的活動として取り組む。
 - ③ 訪問介護記録の入力を簡易にし負担軽減に繋げる。
 - (2) ヒヤリハットを積極的にあげることで、リスクについての気づきを共有し重大事故の防止を図る。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 定期的に職員面談を行うことで、職員の気持ちに添った迅速な対応を行い職場への定着を図る。
 - (2) 訪問先ごとのBCPマニュアルの周知と定期的な訓練を実施し、非常災害時対策の強化を図る。

ケアプランセンター はまゆう

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 専門性の高いケアマネジメントを実現するために、個人のスキルに応じた内部、外部研修の参加を促進し、研修を通じて専門知識を習得することでスキルアップを目指す。
 - (2) 特定事業所として、定期的な勉強会や他の居宅事業所との共同事例検討会を行い、知識、社会資源等の情報共有を行う。
 - (3) 主任ケアマネジャーを中心にOJTを行うことで新人職員・中堅職員のキャリアアップや質の向上を目指す。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 業務効率化のための取り組みを月末に事業所内で検討し、課題の抽出や改善目標を立て実行する。
 - (2) WEB研修やWEB会議、ガルーンでの情報共有を積極的に活用し業務の効率化や負担軽減につなげる。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) ご利用者の安心、安全な生活を実現するために、アセスメントに基づいた事前予防策の提案や多職種による情報共有を推進する。
 - (2) 地域に開かれた、求められる事業所になれるように居宅事業所連絡会や地域の会議や勉強会へ積極的に参加する。
 - (3) 大規模災害に対応できるようBCPに基づいた研修の実施や見直しを行うことで、実効性のあるマニュアル作りを行う。
 - (4) 年間計画を立案し計画的に有給休暇を取得する。

グループホームせんだんの里

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 管理者候補及び介護現場のリーダーを務めることのできる職員を育成する。
 - (2) 個々の職員の能力や経験年数に応じた研修へ参加できるように、計画を策定し調整を行う。
 - (3) 定期的な面談や評価により、職員の知識や技術の習得状況を把握し、それぞれの能力に応じて、業務の範囲を段階的に広げていく。
- 2 生産性委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 職場環境を整備することにより円滑な業務遂行につなげる。
 - ① 日々の5S活動の実施にて、改善が必要な個所を洗い出し、業務の効率化に繋がるように環境整備を行う。
 - ② 事業所の物品については、より機能的に活用ができる物品への変更や、機能性をしっかりと活かせるように丁寧な取り扱いを行う。
 - (2) 日々の業務の現状を把握し効率化を図る。
 - ① 業務内容が見える化し、非効率的な業務内容や実施が困難となっている内容を洗い出し精査する。
 - ② 定期的な業務マニュアルの見直し及び更新、個々の職員の能力に応じた担当業務の振り分け等の役割分担を行う。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 多職種の意見を積極的に取り入れて、利用者の状態の向上を目指し柔軟に対応する。
 - (2) ガルーンやWINCARE等のシステムを活用し情報の整理、共有を行い業務の効率化を図る。
 - (3) 書類については積極的にデータ化を推進し、ペーパーレス化によるコスト削減や、管理にかかる手間の軽減を行う。

グループホームきんもくせいの里

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 介護福祉士、介護支援専門員の資格取得を目指す。
 - (2) 職員個々のレベルに応じた研修へ参加できるよう研修計画をたて実践する。
 - (3) 新人職員や外国人介護職員への指導方法を統一し自立した介護ができるよう職員全体で人材育成を行う。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 毎月、事業所の課題について話し合い業務改善を行う。
 - (2) 職場環境を整え、衛生的で効率良く業務ができるように取り組む。
 - (3) 職員個々の能力に応じて役割を分担するなど、業務の効率化を図る。
 - (4) 他のグループホームの課題や取り組みを共有し、業務改善など継続的に行う。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 利用者と介護者双方の負担の軽減のため、必要な福祉用具を整えて活用する。
 - (2) 事業所内でノーリフトの研修を実施し、介護技術の向上を図るとともに、介助方法の周知、統一を行う。
 - (3) 定期的に職員面談を実施しコミュニケーションを密にするとともに、各種休暇制度の取得ができるよう調整する。

グループホームゆうりこう

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 中堅職員から計画的に中核・リーダー職員の育成を図る。
 - (2) 新人職員個々の能力を引き出し、資質向上、育成に努めていく。
 - (3) 事業所内で定期的に勉強会を実施するとともに、法人内外の研修や勉強会に参加できる機会を設け、資格取得や技能向上に向けた体制を整える。

- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 毎月の職員会を活用し、事業所内での課題の洗い出しと分析を図り業務改善に取り組んでいく。
 - (2) 管理者やリーダー職員による話し合いのもと、職員それぞれの能力に応じた業務分担を行い、個々の責任感を養っていく。
 - (3) 法人内の他グループホーム事業所とも定期的に話し合いの機会を設け、情報共有や意見交換を行い業務改善に繋げていく。

- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 定期的に業務の見直しを行い、情報共有・意見交換をすることで職員間での意識、ケアの統一を図り、入居者、職員共に負担の少ないケアの構築に努める。
 - (2) 業務マニュアルを活用し、新人職員や外国人職員を問わず、全体が同じ質のケアを入居者に提供できるように取り組んでいく。
 - (3) 幅広い視野で福祉用具の必要性を捉え、個々の入居者のニーズに沿った機器の活用ができるよう整備する。

グループホームふなとの里

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 人材育成に注力し、質の高い認知症ケアの提供を目指す。
 - ① 新人職員、特定技能生の基礎研修資格取得を計画する。
 - ② 中堅職員以上は、職場を離れた内外部の研修参加を行う。
 - ③ OJTを推進するため、新人職員の指導、評価が行える職員を養成する。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する
 - (1) 5Sと3Mの実践を通し、現場の課題や改善箇所の洗い出しを行い業務の現状を把握し、明確化・重複業務など無駄を無くす。
 - (2) ガルーンのスペースを活用し、申送事項などの情報共有を図り、ICT導入時に柔軟に対応できるよう情報収集を行う。
 - (3) PDCAサイクルに沿った改善活動を継続させ、関係事業所間で取り組みや業務改善策など情報交換を行う。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 最期まで安心して過ごしていただける事業所作りを行う。
 - ① 訪問看護を中心とした多職種連携を図る。
 - ② 必要なケアの見極めと環境づくりに努め重大事故ゼロを目指す。
 - (2) 非常災害時マニュアル、BCPに沿った風水害等災害時の対策強化を図り、地域住民等と共同した風水害訓練の実施、参加の機会を設ける。
 - (3) 働きやすい職場環境作りを行い職員定着を推進する。
 - ① 基本的業務の流れ（マスターライン）の再構築を図る。
 - ② 福祉用具等を活用し職員、入居者の負担軽減を図る。
 - ③ 隔月のリフレッシュ休暇を促進する。

老人保健施設 しお風

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 新人職員・外国人介護職員・中堅職員、個々の段階（レベル）に応じた研修参加を促し業務についての知識や技術を向上させる。
 - ① 法人内外の研修に2回/年以上参加し、自己研鑽に努めると共に参加後の伝達講習を実施し、職員の知識や技術の向上を図る。
 - ② 事業所内で個々のレベルを評価し、能力に応じた研修計画を立て、段階的にレベルアップ出来るように指導や支援を行う。
 - (2) 面談やOJTを活用し能力の可視化を図る。
 - ① 職員と定期的な面談やOJTを活用し、スタッフの能力や問題点を可視化する。
 - ② 実際の介護現場で講習会を実施し、日々のカンファレンスにおいては情報共有をすることでケア方法の統一を行う。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生産性の向上を図るため、役割や課題を明確にする。
 - ① 生産性向上委員会を設置し、1回/月の委員会を開催する。また、役割分担（委員長・委員・促し役）や手順書（マニュアル）の作成・修正、適切な備品等の管理など業務内容の見直しや改善をPDCAに沿って行う。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 利用者を個別にアセスメントし、自立支援に向けた取り組みや事故防止に努める。
 - ① 多職種でアセスメントを行い、ヒヤリハットの収集や分析による事故防止、また個々の心身機能及び活動や参加、ADL等の向上を図るための取り組みを立案し実施する。
 - (2) 職場環境の充実及び整備を図る。
 - ① 人材育成及び業務の効率化を図り、適切な仕事量や人員配置で超過勤務の削減や有給休暇が取得しやすいようにする。
 - ② ノーリフティングケアや看取りケア体制の充実を図り、データを活用することで、安心して安全なケアを多職種で実践する。

老人保健施設しお風 通所リハビリテーション

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 研修へ積極的に参加し、職員全体の知識・技術の向上に努める。
 - ① 今年度、各自の研修目標を掲げ、目標達成に努める。
 - ② 新たな資格取得を目指す（認知症ケア・ケアマネ等）。
 - ③ 年に法人内研修 2 件、外部研修 1 件の研修受講を目標とする。
 - (2) OJT を活用し人材育成に努める。
 - ① 年 2 回 OJT 評価および職員面談を行い、人材育成のための指導、教育を推進し、安定した事業運営に繋げる。
 - ② 法人内グループウェアの活用や、朝礼、デイケア会、担当者会等で利用者の気付きに対する発信を積極的に行う。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生産性向上委員会を月 1 回開催し、業務改善を見直す。
 - ① 手順書を作成する。PDCA サイクルに基づき適宜見直しを行う。
 - ② 生産性向上委員会の勉強会を実施し職員への浸透を図る
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 安定した運営
 - ① 通所リハビリとしての役割の発信
 - ② 家族や関係機関との連携を強化し、在宅での生活に即したサービスを提供する。
 - (2) データを活用した多職種連携
 - ① 心身機能（運動機能・認知・栄養・口腔）の評価、およびデータ収集・分析を行って、根拠のあるプログラムを立案する。
 - (3) 災害 BCP の運用に努め、ご利用者及び職員の安全を確保する。
 - ① 実践的な防災訓練を実施し、災害時に迅速な初動が行えるよう取り組む。
 - ② 全職員が防災備品・機器の保管・設置場所、整備、取り扱いを把握する。
 - ③ 地域の防災訓練や行事に参加する。

訪問看護ステーションあおぞら

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 職員の資質向上に努め、個々の実践力と指導力を強化する。
 - ① 内、外部研修に積極的に参加し伝達講習を行う。
 - ② 資格取得に向けて取り組む。
 - (2) 事業所内での勉強会を開催し、感染症・褥瘡予防、緊急時の対応等の専門的な知識、技術等について指導する。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生活向上委員会を通して、課題を抽出し業務の改善、効率化を図る。
 - (2) 業務の明確化を図り、個々の役割分担について計画を立て業務にあたる。
 - (3) 合同運営会議を開催し情報共有を図るとともに、サービス提供や利用者への関わり方について協議する。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 24時間対応体制の充実について、フローチャートの作成に取り組み、在宅での終末期ケアを充実させる。
 - (2) 居室の環境設定や、個々の状態に合わせた補助具などの選定等の助言を行い、訪問看護サービスの充実を図る。

訪問看護ステーション キセキレイ

年度目標

- 1 知識、技術の習得状況に応じた段階、計画的な人材育成を実施する。
 - (1) 計画的な研修参加とモニタリング、評価の実施
 - ① 1ヶ月に1回、事業所内勉強会を実施することで職員の知識や技術を向上させる。
 - ② 職員それぞれが、研修計画を立案し3か月ごとのモニタリング（7月、10月、1月）を実施、評価を行うことで自己の目標に対する達成率を自覚し、今後の課題を明確にすることでモチベーションの向上につなげる。
- 2 生産性向上委員会を設置し業務改善を推進する。
 - (1) 生産性向上委員会設置についての勉強会を実施し、理解を深める。
 - (2) プロジェクトメンバーとして訪看キセキレイのスタッフ全員が関わり、管理者がリーダーとなり月1回、生産性向上委員会を開催する。
 - (3) 事故、ヒヤリハット等を活用して現場の課題を抽出、分析し業務改善に取り組む。
- 3 サービスの質の向上と働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - (1) 看取りケア体制の充実
 - ① 3ヶ月に1回勉強会を実施し、終末期ケアについての理解を深める。
 - ② 職員それぞれが各事業所での指導を積極的に行い、リーダーシップを発揮することで看取りケア体制の充実を図る。

総合福祉ゾーン

オークの里

- ・ 総合福祉ゾーンオークの里 ……P36
- ・ 障害者支援施設のぞみの家 ……P37
- ・ デイサービスセンター 丹心苑 ……P38
- ・ ケアハウス まごの手 ……P39
- ・ グループホーム なごみの里 ……P40
- ・ 特定相談支援事業所 のぞみ ……P41
- ・ 共同生活援助オレンジハウス ……P42
- ・ 維新工房きらり ……P43

総合福祉ゾーン オークの里

基本方針

総合福祉ゾーンオークの里は、法人の４大目標の推進とプロフェッショナルな人材の育成に取り組み、利用者が安心・安全で健康的な生活が送れるよう各専門職種が連携し、質の高いサービス提供に努めます。

また、各事業所の運営目標を明確にし、職員の経営意識向上を図り、適正且つ安定した事業運営を目指します。

危機管理対策については、地域や関係機関と連携を取りながら、各事業所の実情に応じ、BCP等を駆使し、実践的な訓練を行い、防災や防犯体制の強化に努めます。

年度目標

- 1 ４大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。

障害者支援施設 のぞみの家

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) プロフェッショナルな人材の育成と資質向上を目指す。
 - ① 施設内外の研修に参加し、知識、技術の向上と指導能力の向上を図り高齢化による機能低下や障害特性に応じた適切なケアを提供できる職員を育成する。
 - ② 外国人介護職員への指導方法を統一し、継続的な指導につなげ能力アップを図る。
 - (2) 利用者のニーズに沿った質の高い安定したサービスの提供を目指す。
 - ① 各専門職が専門性を活かし、他職種との連携を図りながら、支援内容を統一し、障害特性に応じた質の高いサービスの提供に努める。
 - ② 口腔ケア推進士を中心に年2回の勉強会を開催し、誤嚥性肺炎の予防に繋げる。
 - ③ ノーリフティングケア委員会を定期的を開催し、マニュアルの見直しを適宜行い、より安全で統一したケアを目指す。
 - (3) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① 事故原因の究明と速やかな再発防止策を講じ、事故件数減少と骨折0に向けて取り組む。
 - ② 利用者に応じた福祉用具の適切な使用とその使用方法を周知徹底し、環境要因に起因する事故を予防する。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
 - (1) 安定的な事業運営を目指す。
 - ① 稼働率目標を入所95%、短期入所80%とし、関係機関との情報共有及び情報収集に努め、入所マネジメントの効率化を図る。
 - (2) 経営意識の向上を図る。
 - ① 毎月の運営会議の中で、収支状況の把握と共有に努め、事業所全体で経営意識の向上につなげていく。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 災害時に備え運営体制を整える。
 - ① BCP、非常災害マニュアル等の適宜見直しを行い、実践的な防災訓練を実施する。
 - ② 災害時における地域住民や行政機関との連携体制を強化、確立する。

デイサービスセンター 丹心苑

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) リスクマネジメント力の向上、リスク管理を行うことで事故を防ぐ。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を活用し、危険予測や未然防止策を講じ、職員間で周知・徹底出来るよう意識付けを行う。
 - (2) 誤嚥性肺炎の予防、口腔ケアの質を高める。
 - ① 介護口腔ケア推進士の資格取得を目指す。
 - ② 関係する研修へ参加し、知識・技術の向上を図る。
 - (3) 認知症予防を目的とした質の高いサービスを提供する。
 - ① 利用者個々のニーズを把握し、適切なサービス提供が行える通所介護計画書、個別機能訓練計画書の作成・実施・評価を行う。
 - ② 季節に応じた行事や壁面制作の作成を行う。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
 - (1) 年間稼働率平均 97% 目標とし、運営の効率化や安定を図る。
 - (2) 各関係事業所と連携を図り、利用者の状態把握やサービス状況等の情報交換をする。
 - (3) 毎月の運営会議で収支の状況を把握し、職員間で共有する。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 非常事態に備え、自事業所の最新のハザードマップの確認や BCP をもとに実践的な訓練を実施する。
 - (2) 運営推進会議の開催や地区清掃へ参加することで、地域の実情を把握し、継続した関係づくりをしていく。

ケアハウス まごの手

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) 関係事業との連携強化、チームケアの実践。
 - ① 年に1回以上 OHAT を実施し、適切な口腔ケアを実施、個々に応じた食事形態の検討を行い、誤嚥性肺炎予防に努める。
 - ② 定期的に多職種で入居者のケア方法を協議し、個々の心身の状態に応じた生活環境や福祉用具の提供を行い、安心・安全な生活を送れるように支援する。
 - ③ ヒヤリハット報告書を活用し、関係事業所と情報共有し、安全対策を講じる。
 - ④ 入居者の日々の状態把握、情報共有を行い、適切なサービス提供に繋げる。
 - (2) 職員の意識・知識・技術の向上に努める。
 - ① 外部・内部研修に参加し、専門的な技術・知識の習得に努め、スキルアップを図る。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
 - (1) 年間稼働率目標を98%とし、迅速な入退去調整に努める。
 - (2) 月40件以上の広報活動を計画的に行い、待機者の確保に努める。
 - (3) 毎月の運営会議で収支の状況を把握し、職員間で共有する。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 災害時に迅速に動けるよう、意識の向上に努める。
 - ① 計画的に訓練を実施し、防災力の強化を図る。
 - ② 地域の自主防災組織との連携し、訓練を実施する。

グループホームなごみの里

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) 利用者個々のニーズを把握し、質の高いケアの提供に努める。
 - ① 本人や家族の希望に沿った個別ケアと看取り介護の実践。
 - ② 事故防止研修等をとおして、リスクを予測した行動ができる職員を育成する。
 - ③ 利用者個々に適した福祉機器を導入し、入居者と職員にとって、負担が少なくなるよう環境を整備する。
 - (2) 専門職としての知識・技術の向上を目指す。
 - ① 認知症ケアに必要な勉強会や研修に参加する。
 - ② 口腔ケア推進士や、介護支援専門員等の資格取得に向けた計画を立て、スキルアップができるよう支援する。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
 - (1) 収支状況を把握し、安定した在籍率の確保に努める。
 - ① 年間稼働率目標を98%とし、スムーズな入退去調整に努める。
 - ② 入居者の状態の変化を把握し、他職種と連携して健康状態の維持に努める。
 - ③ 関係機関との連携や地域の情報収集、広報活動を行い、常時待機者を2名は確保できるように努める。
 - (2) 職場環境の整備と職員の定着化を図り、事業安定につなげる。
 - ① 職員間で意見交換し、無理やムダがなくなるように業務改善に取り組む。
 - ② 計画的に有給休暇を取得し、心身ともにリフレッシュができる。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 職員が非常時に、適切且つ迅速な行動が行える。
 - ① 非常災害時マニュアルやBCPを周知し、日頃からの連絡・協力体制の構築、備品管理に努める。
 - ② 地域住民と連携した防災訓練や自主防災活動等へ参加し、災害時の支援体制を構築する。

特定相談支援事業所 のぞみ

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) 相談支援専門員の資格保持者を育成する。
 - (2) 法人内外の研修に参加し、専門職として実践能力を向上させる。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 行政機関の会議や研修、地域での取り組みに積極的に参加する。
 - (2) 関係機関と情報共有し、臨機応変なサービス調整を行う。
 - (3) 書類整理・整頓や行政提出物など、円滑な業務遂行を行う。
 - (4) 利用者や家族の意向に添える様に地域の社会資源を把握する。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 非常災害時に関係機関と連携し、利用者の安否確認に努める。
 - (2) 地域の防災訓練に参加し、地域住民との交流を行う。

共同生活援助 オレンジハウス

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) 専門的援助者として、実践能力の向上に努め、良質なサービス提供をする。
 - ① 支援に必要な知識習得の為、研修会に年3回以上参加する。
 - ② 関係機関との関わりを持ち、定期的にケース会議を行い、支援内容の確認をする事で、職員のチーム力向上や意識統一を行う。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 目標稼働率を90%以上とし、安定した事業運営を行う。
 - ① 利用者の日中活動先や関係機関と常に連携を取り、情報の共有を図る事で、事業所と就労先の安定した利用に繋げる。
 - ② 待機者の確保と入居者の定着化を図り、定員15名を維持する。
 - (2) 事業所の運営状況を把握し、経費削減に取り組む。
 - ① 水光熱費や食材等の在庫管理を徹底し、コスト意識を持つ。
 - ② 収入や支出状況の把握と分析を行い、安定した運営に努める。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 地域性に特化した防災対策や訓練を行う。
 - ① 地域の訓練に参加し、地域住民と協力体制を深め、有事に備えた訓練を行い、ハザードマップで警戒区域や避難場所の最新情報の確認を行う。
 - ② 火災・風水害等の非常時に適応した、実践的な防災訓練を年5回行う。

維新工房きらり

年度目標

- 1 4大目標の推進とプロフェッショナルな人材育成への取り組み。
 - (1) 職員会を通じて知識や技術の専門性を高め、利用者個々に合わせた支援が出来るように努める。
 - ① 相談支援従事者の研修テキストを基に、修了者相当の知識が持てるように職員個々の段階に合わせた指導に努める。
 - ② 個別支援計画検討の際、利用者の目標に向けた支援方法を各職員が具体的に考えられるように促し、技術の専門性向上に努める。
- 2 運営目標の明確化と経営意識の向上。
 - (1) 働きやすく安全で安心できる職場環境の整備を進める。
 - ① 安全衛生管理の考え方を取り入れた作業所の整備を行い、作業しやすく安全な環境作りを進める。
 - ② 利用者が安心して能力を発揮できるよう相談できる体制を整え、細やかな要求に対応することで個々の利用率90%以上を目指す。
 - (2) 事業所の運営状況を共有し、職員に経営意識を持つように促す。
 - ① サービスと収入の関係を事業所の運営状況を通じて共有し、各職員が事業所運営を我が事と捉え、経営意識を高めていく。
- 3 地域や関係機関と連携し、実践的な防犯・防災訓練の実施。
 - (1) 防犯や非常災害に備え地域との連携を意識する。
 - ① 積極的に挨拶をし、交通マナーに気を配るなど事業所が地域に溶け込めるよう努める。
 - (2) 実践的な防災訓練の実施。
 - ① 防災訓練の年間計画に沿って実践的な訓練を行い、他事業所と連携が図れるよう意識を高める。

総合福祉ゾーン キセキレイの里

- ・ 総合福祉ゾーンキセキレイの里 ……P45
- ・ 養護老人ホーム清香園 ……P46
- ・ デイサービスセンターアザレア ……P47
- ・ 認知症デイサービスセンターいおき ……P48
- ・ ケアハウスせいらん ……P49
- ・ グループホームあい ……P50
- ・ グループホームびわの里 ……P51
- ・ グループホームくすのきの里 ……P52

総合福祉ゾーン キセキレイの里

基本方針

総合福祉ゾーンキセキレイの里は、福祉施設としての役割を果たし、支援を必要とする方々がその人らしく安心して生活できる施設を目指します。

また、自然災害だけでなく感染症蔓延に備えて危機管理体制の整備と地域との連携を強化すると共に、びわの里の高台移転に向けて計画的に取り組めます。

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4 大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
- 4 びわの里の高台移転に向けて進捗状況を管理し、円滑に移転する。

養護老人ホーム 清香園

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4 大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 利用者の口腔機能の維持向上、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ① 口腔ケア推進士を中心に口腔衛生指導を適宜実施する。
 - ② 摂食・嚥下能力を評価し、状態に応じた形態の食事を提供する。
 - (2) リスクマネジメント力を強化し、皮下出血・骨折事故を予防・防止する。
 - ① 多職種で事故、ヒヤリ・ハットの原因分析を行い、事故防止策を講じる。
 - ② 利用者の状態に応じた環境整備、福祉用具の活用、介助方法を検討する。
 - (3) 計画的に人材を育成する。
 - ① 職員個々が目標を持ち、資格取得を目指す。
 - ② 年間研修計画に基づき施設内外の研修に参加する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 地域及び行政との連携を密にし、養護老人ホームの役割を果たす。
 - ① 広報活動にてニーズの収集と情報を発信し、稼働率の向上に繋げる。
 - (2) 職員のスキルアップと定着を図る。
 - ① 各種マニュアルに沿って指導を行い、介護現場での基本的な技術・技能習得を目指す。
 - ② 職員間のコミュニケーションにより職場環境・業務改善を図り、職員の定着に繋げる。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 災害時の事業継続を念頭に置き、防災意識の向上を図る。
 - ① 事業継続計画(BCP)に基づいて、研修・訓練を実施する。
 - ② 地域の防災訓練等に参加することで連携を深め、福祉(一時)避難所としての役割を果たす。
 - (2) 感染防止対策を継続し、感染症の予防及び蔓延防止に努める。
 - ① 地域の感染状況の把握、職員間の情報共有により蔓延防策を講じる。
 - ② 職員一人一人が感染症に対する正しい知識と予防策を学ぶ。

デイサービスセンター アザレア

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 変化に気づく目を養い、事故防止に取り組む。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を活用し、危険予測・早期対策を講じる。
 - ② 担当者会や職員会にて、多職種とリスクの把握と共有、統一したケアの実施に繋げる。
 - (2) 口腔ケアに対する知識を習得し、誤嚥性肺炎を予防する。
 - ① 口腔ケア推進士の資格取得に努める。
 - ② 専門職と連携し、摂食時の姿勢、嚥下・咀嚼の確認、定期的な口腔内観察、口腔ケア方法の確認、口腔ケア用品の管理を行う。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 安定した事業運営に取り組む。
 - ① 目標稼働率96%以上を目指す。
 - ア 利用者のニーズを把握し、個別性のある通所介護計画書を作成し、サービス提供することで、稼働率を安定させる。
 - ② 光熱水費等経費節減に努める。
 - (2) 働きやすい職場環境を作る。
 - ① 定期的に職員面談を実施し、職員の思いを聞く。
 - ② 計画的に環境整備を行う。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 地域と連携を図り、防災対策に取り組む。
 - ① 非常時に備え、地域との防災訓練に参加し役割を理解する。
 - ② 災害等を想定した防災訓練に計画的に実施する。
 - (2) 感染症対策を実施し、予防、蔓延防止に努める。
 - ① 感染症に対する情報を周知し、利用者、職員共に体調管理を行う。
 - ② 利用者の状態観察をし、体調不良の早期発見、早期対応を行う。

認知症デイサービスセンターいおき

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 認知症ケアの専門性を高める。
 - ① 認知症ケアの研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に繋げる。
 - (2) 重大事故発生率を低減する。
 - ① 事故防止の研修に参加し、知識や技術を習得しリスクマネジメント力の向上を図る。
 - ② 利用者の健康状態の確認、行動の把握等、情報を共有し事故防止に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 利用者の健康管理を行うことで安定した事業運営に努める。
 - ① 居宅介護支援事業所や施設等と情報交換、情報共有を行う。
 - ② 多職種と協力し利用者個々の身体状況の把握に努める。
 - (2) 働きやすい職場環境の整備し、職員の定着を図る。
 - ① コミュニケーションを図り互いに対する理解を深め、協力・助け合いの意識を持ち職員間の連携に努める。
 - ② 計画的に有給休暇（年5日以上）を取得する。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 行政及び地域との連携体制の確立に努め、防災危機管理対策の充実に取り組む。
 - ① 地域の防災訓練へ参加し、地域と連携を図る。
 - ② 非常災害時に対応できるよう、適宜マニュアルの見直しやハザードマップや非常災害時対応マニュアルを周知する。
 - ③ 自然災害時の感染症蔓延が防げるよう全職員が感染症研修に参加し、知識の向上に努める。

ケアハウス せいらん

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4 大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 多職種連携による個人にあったサービス提供
 - ① 多職種と情報共有し、利用者の状態把握と個別ケアに繋げる。
 - ア 月 1 回以上のカンファレンス・担当者会を行う。
 - イ 利用者の体調管理を行い、異常の早期発見・早期対応に努める。
 - ② 感染症対策の推進
 - ア 感染症対策を徹底し、職員全員が健康管理に努め施設内への持ち込みを防ぐ。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 目標稼働率 99%以上を目指す。
 - ① 医療・行政機関、居宅介護支援事業所等を中心に月 75 件以上の広報活動を継続する。
 - ② 待機者を 2 名以上確保し、入退居調整にかかる空床日数を減らす。
 - (2) 働きやすい職場環境を作る。
 - ① 計画的に有給休暇取得し、ワークライフバランスを推進する。
 - ② 業務内容を見直し効率的な業務内容に改善する。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 地域及び行政との連携体制を強化する。
 - ① 地域・行政主催の防災訓練に参加する。
 - ア 地域の要介護者の情報やニーズの把握に努める。

グループホームあい

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 多職種連携による個々の利用者にあったサービスを提供する。
 - ① 蓄積されたデータ（骨密度、事故報告）を活用し、事故予防に努める。
 - ② 理学療法士、栄養士等と連携した取り組みをケアプランに反映し、専門性の高いケアを提供する。
 - (2) 外国人職員を含む介護職員のスキルアップを図る。
 - ① 研修や資格取得の機会を増やし、職員の知識・技能の向上に繋げる。
 - ② OJT指導を通して、目的意識を持って業務を遂行出来る人材育成に努める。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 目標稼働率 98%以上を維持し、安定した運営を行う。
 - ① 常時 4 名以上の待機者確保に努める。
 - ② 広報活動を月 20 件以上行い、地域のニーズの把握に努める。
 - (2) 職場環境を整備し、安心して働ける環境づくりを行う。
 - ① 各種休暇制度を推進し、働きやすい環境を整える。
 - ② ノーリフトケアを推進し、腰痛のある職員 0 名を目指す。
 - ③ 4S 活動を推進し適切な書類管理及び業務の効率化を図る。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 非常災害時に防災拠点としての能力が発揮できるよう、マニュアルを整備し防災危機管理体制の強化を図る。
 - (2) 運営推進会議を通じて地域資源の情報共有やニーズの把握に努め、地域及び行政との連携を深める。

グループホームびわの里

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) OJT指導を実施し、職員個々のスキルアップを図る。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書の有効活用によりリスクマネジメント体制の充実に図り、骨折ゼロを目指す。
 - ② 多職種連携で口腔ケア・感染症対策・認知症ケア・ノーリフティングケアを推進し、利用者個々に適したサービス提供を行う。
 - ③ 研修参加や資格取得の推進を図り、知識・技能・意欲の向上に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 平均稼働率 99%以上を目指し進捗管理を徹底する。
 - ① 広報活動月 20 件以上行い、地域ニーズの把握と待機者を確保する。
 - (2) 経費節減に取り組み、前年度比で支出を抑える。
 - (3) 個人面談の実施、4S 活動、計画的な有給休暇取得を推進し、働きやすい職場環境を作る。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 防災危機管理対策の充実に図る。
 - ① 事業所の立地条件を踏まえて災害等を想定した訓練を実施する。
 - ② BCP、非常災害マニュアルを定期的に見直すと共に防災備品を整備する。
 - ③ 運営推進会議の活用と地域住民との交流を図り、信頼関係を構築し連携体制を構築していく。
- 4 高台移転に向けて進捗状況を管理し、円滑に移転する。
 - (1) 利用者の負担が最小限になるよう安全に転居する。
 - ① 関係機関と密に情報共有を行い、移転スケジュールを管理する。
 - ② 利用者優先で新しい環境に戸惑うことなく生活が送れるよう支援する。

グループホームくすのきの里

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、4大目標の推進と職員教育の充実に取り組む。
 - (1) 多職種連携でアセスメントを行い、利用者個々に応じたケアを見極め実施する。
 - ① 定期的にカンファレンスを実施し、様々な視点からリスクマネジメントを行い、情報を共有することで重大事故を防止する。
 - ② 歯科医指導のもと適切な口腔ケアを実践し、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ③ 利用者個々に応じたケアの為、ルール周知徹底と業務改善を行う。
 - (2) 職員のアセスメント能力の向上を図る。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を活用してリスクの発見、早期対応に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理、職場環境の整備と職員定着に取り組み経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 毎月、稼働率98%以上を維持する。
 - ① 入居前面接等を順次行い、スムーズな入居調整を行う。
 - ② 広報活動により関係機関との連携、信頼関係の構築を図る。
 - (2) 働きやすい職場環境を作り、職員の定着を目指す。
 - ① 個別面談の機会を設け、職員個々の課題解決に努める。
 - ② 労働関係法令を遵守し有給休暇取得等の労務管理を行う。
- 3 起こり得る自然災害等に備え、危機管理体制と地域との連携を強化する。
 - (1) 地域社会との繋がりを重視した取り組みを行う。
 - ① 地域住民参加型の総合避難訓練実施や地域の清掃活動等へ積極的に参加し、協力し合える関係性の構築を図る。
 - ② 地域との相互理解が深まるよう、運営推進会議を活用して防災等に関する事業所の現状やリスクを発信する。
 - (2) 自然災害に備えた取り組みの強化を図る。
 - ① ハザードマップに基づき、実践的な防災訓練を実施する。

総合福祉ゾーン

もとかの里

- ・ 総合福祉ゾーンもとかの里 ……P55
- ・ ユニット型特別養護老人ホーム
もとか ……P56
- ・ 認知症デイサービスセンターかがやき ……P57
- ・ ケアプランセンターもとか ……P58
- ・ グループホーム ひのきの里 ……P59
- ・ 認知症デイサービスセンターひのきの里
……………P60
- ・ グループホーム やまざくらの里 ……P61
- ・ グループホーム あさぎり四万十の里 ……P62
- ・ グループホーム かづらしま ……P63
- ・ グループホームななつかたばみ ……P64
- ・ グループホームゆうき ……P65
- ・ 有料老人ホームあさくらの里 ……P66
- ・ 有料老人ホームながはまの里 ……P67
- ・ 有料老人ホームゆりぐるまの里 ……P68

- ・ デイサービスセンターすみれ ……P69
- ・ 認知症デイサービスセンターさくら ……P70

総合福祉ゾーンもとかの里

基本方針

事業所の持つ機能や専門的な力を活用して、福祉サービスが必要である人々が、住み慣れた場所で自分らしく安全・安心な暮らしが継続できるように取り組んでいきます。そのために、職員教育は、職種別、階層別で達成すべき目標を明確にした上で専門性を高めるための教育に努めます。また、危機管理体制としては、BCP（事業継続計画）をもとに様々な緊急事態を想定した実践的な訓練を実施します。

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。

ユニット型特別養護老人ホームもとちか

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) スキルアップに努め専門性を向上させる。
 - ① 研修への参加及び資格取得に向けた勉強会へ積極的に参加する。
 - ② 外国人職員に対し、OJTにより日本語能力と介護の専門的知識・技術の向上を目指す。
 - (2) 専門知識を活かした質の高いサービスの提供に努める。
 - ① 適切な病状管理を行い、異常の早期発見に努め、重症化を予防する。
 - ② 利用者の状態変化に伴うリスクを予測し、個々に応じたケア方法の変更や統一を図るとともに、未然防止策・損害軽減策を迅速に導入する。
 - ③ ユニット(サブ)リーダーの役割や担当を決め、管理能力の向上を図る。
 - (3) 看取りケアの更なる推進及び体制を整備する。
 - ① 看取り意向調査及び個別説明を実施し、本人・家族の意向に沿った看取りケアを実践する。
 - ② 看取りに関する勉強会を開催し、ケア内容の充実を図る。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入と経費節減に努める。

(広報件数 80 件以上、入所稼働率 98%、ショートステイ稼働率 90%)。

 - ① 計画的に広報活動を展開し、待機者確保に向けた取り組みを継続する。
 - ② 待機者管理を徹底し、緊急性や個々の状況を考慮した提案を関係機関に及び家族に行うことでサービス利用を促進する。
 - ③ 稼働率を常に意識した、迅速な入退所調整を図る。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) BCP(事業継続計画)の策定及び見直しを図り、実践的な訓練を実施する。
 - ① 非常災害・感染症に関する研修や訓練を通して、関連知識の習得及び対応方法を職員に周知する。
 - ② 自主防災組織と避難訓練を合同で実施する機会を設け、連携体制を確立する。

認知症デイサービスセンター かがやき

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 4大目標の具体的な取り組みを実施する。
 - ① 適切な福祉用具の導入
 - ② 内部外部研修へ参加し、修得した技術、知識は職員間で共有する。
 - ③ 多角的な視点からヒヤリハット報告書を作成し、気付きを持つ。
 - (2) 品質向上の要となる中堅職員の教育に努める。
 - ① 専門的な知識や技術の習得、資格取得
 - ② 業務の役割を明確にし、職員個々の得意分野を伸ばす。
 - ③ 根拠に基づいたプラン作成を行う為のアセスメント力の強化
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 職員が事業所の収益に関心を持つような取り組みを行う。
 - ① 収益一覧表を職員会で共有して意見を出し合う。
 - (2) 安定した収入と経費節減に取り組む。
 - ① 日々の空き枠と稼働率への意識の定着
 - ② 多職種を含めた職員間の連携とチームワークの強化を図り、利用者の健康管理に努める。
 - ③ 水光熱費、事業所内と物品の適切な使用による修繕・修理の管理
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 様々な自然災害に備え、定期的に避難訓練を行う。
 - ② 地域の避難訓練や行事等へ参し、地域との連携を図る。
 - (2) 利用者が地域交流できる場の確保に努める。
 - ① 地域交流を目的としたボランティアの受け入れ

ケアプランセンターもとちか

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 住み慣れた場所で自分らしく安全・安心な暮らしが継続できる生活を目指す。
 - ① 多職種と連携し、状態に応じた環境整備やサービス調整をする。
 - (2) 資質向上を図るため職員の育成を図る。
 - ① 毎月開催する勉強会やブロック会・外部研修に参加し、新たな知識を得て専門性を高める。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 事業所収益の共有を図る。
 - ① 職員会にて事業所の収支や各サービス利用実績を把握し、経営意識を高める。
 - (2) 経費削減を図る。
 - ① 購入する物品の見直しを行い、支出削減する。
 - (3) 働きやすい職場づくりを行う。
 - ① 年間計画をたて、計画的に有給休暇を取得する。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 地域と連携した非常災害訓練等に参加し、BCPの意識を高める。
 - ② 地域行事や清掃活動等へ参加し、地域とのつながりを深める。

グループホームひのきの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 認知症ケアについて、知識を深める。
 - ① 計画を立て、全職員が研修へ参加できる体制を整える。
 - ② 介護福祉士や介護支援専門員など資格取得を目指し、高品質なサービス提供へ繋げる。
 - (2) ご利用者の立場に立ったケアを実践する。
 - ① 身体状態を把握し、福祉用具の活用と技術で、安全な介護を提供する。
 - ② ご利用者との信頼関係を築けるように、積極的に会話をする。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入維持に努める。
 - ① 待機者確保、スムーズな入退居調整に努め在籍率 98%以上を維持する。
 - ② デイサービスひのきの里と情報共有し待機者確保に努める。
 - (2) 経費節減に取り組む。
 - ① 職員が経費節減について、関心を持つように発信する。
 - ② 物品、備品を大切に取り扱い、無駄がないように在庫管理する。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 防災への意識を高め、対応力を培う。
 - ① 事業継続計画に基づき、非常時を想定した訓練を実施し確認する。
 - ② 訓練や研修により職員の防災・危機管理の知識向上を目指す。
 - ③ 備蓄品リストを掲載し、備蓄・使用・購入の管理を行う。
 - ④ 地域との連携を図ることで、支援活動の協力体制を構築する。
 - ⑤ 毎日、火の元点検、月 1 回の安全パトロールを継続し安全な施設管理を行う。

認知症デイサービスセンター ひのきの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成する目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 認知症高齢者の特性を踏まえ、個別性を重視したサービスを提供する。
 - ① 利用者の自発性や残存能力を活かしたサービスの提供に努める。
 - ア 活動の計画・実施・評価を行う。
 - イ できることを見つけて援助していく。
 - ② 専門職としての意識を高め、職員個々の資質向上に努める。
 - ① 法人内外の研修に参加し、介護技術・専門知識の向上に繋げる。
 - ③ リスクマネジメント管理を徹底する。
 - ① ヒヤリハット報告書の提出・分析を行い、事故0件を継続させる。
 - ② 天候や道路状況を把握し、安全な送迎を行う。
 - (2) 専門職としての意識を高め、職員個々の資質向上に努める。
 - ① 法人内外の研修に参加し、介護技術・専門知識の向上に繋げる。
 - ③ リスクマネジメント管理を徹底する。
 - ① ヒヤリハット報告書の提出・分析を行い、事故0件を継続させる。
 - ② 天候や道路状況を把握し、安全な送迎を行う。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 月平均稼働率70%以上を目指す。
 - ①地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を図り、新規利用者の確保に努める。
 - ②利用者の状態の変化に応じて、区分変更や利用回数の見直しを進めていく。
 - (2) コスト削減に取り組む。
 - ①食材、消耗品等の在庫状況を管理し、経費削減する。
 - ②備品、設備を適切に取り扱う。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域住民との協力体制を図り、非常災害時に迅速に対応できるよう努める。
 - ①地元消防署、地域住民と連携を図り定期的な防災訓練を実施する。
 - ②緊急災害時の連絡体制を見直し、整理する。
 - ③送迎ルート of 危険個所、避難場所の再確認を行う。

グループホームやまざくらの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した室の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 次期管理者候補となる職員の育成に取り組む。
 - ① 年度内に必要不可欠な研修終了を目指す。
 - (2) 計画的な外部研修の参加、計画的な WEB 研修を継続する。
 - ① 正規職員を中心に最低一人一回の外部研修に参加の機会を作る。
 - ② 計画的に WEB 研修が受講できる勤務体制を整える。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保する。
 - ① 年間の在籍率 98%以上を目指す。
 - ② 適宜、介護度の見直しを行い計画的な区分変更申請を行う。
 - (2) 無駄な支出の削減に努める。
 - ① 食品や物品の過剰在庫を持たないよう月に一回はチェックを行う。
 - ② 適切な空調管理を行い、前年度水準を超えない使用を心掛ける。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 事業継続計画（BCP）に基づいた訓練の実践に取り組む。
 - ① ローリングストック方式にて備蓄食品や備品の管理を行う。
 - ② 避難訓練時には備品の使用方法について職員間で共有する。
 - (2) 地域住民を巻き込んだ訓練の実現に取り組む。
 - ① 地域の避難訓練に積極的に参加する。
 - ② 事業所の避難訓練の際には、近隣住民に向けて参加の依頼を行う。

グループホームあさぎり四万十の里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 月毎の目標を定め、達成する為に行動目標に沿って業務へ取り組む。
 - ① 毎月の目標や行動目標を目につく所に貼り職員間での意識付けを行う。
 - ② 毎朝の朝礼で読み上げ、目標を念頭に業務に努める。
 - (2) 自ら考えて行動できる職員の育成を行う。
 - ① 必要に応じて資格取得に向けたバックアップ体制を構築する。
 - ② 事業所内・外への研修へ職員全員が参加出来るように勤務調整を行う。
 - ③ 計画的にWEB研修を継続する。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保し、事業運営を確立させる。
 - ① 広報活動で待機者を確保し、入居調整をスムーズに行う。
 - ② 年間在籍率 98%以上を確保する。
 - (2) 経費節減に取り組む。
 - ① 在庫管理を徹底し、過剰な在庫を持たないようにする。
 - ② 職員 1 人ひとりが節電・節水を心掛け、消耗品の無駄使いをなくす。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 自然災害発生時における事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を実施する。
 - ① 防災・危機管理能力の向上を目指す。
 - ② BCPの内容理解や改善を目的とした教育、訓練を定期的実施する。
 - (2) 緊急事態を想定した実践的な訓練を行う。
 - ① 避難訓練（自主訓練を含む）を年間 5 回以上行う。
 - ② 地域や関係機関との連携を密に取り、緊急時の協力体制を強化する。

グループホームかづらしま

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 管理者候補やリーダー職員の人材育成に取り組む。
 - ① 必要な研修への参加と資格取得に向けた勤務調整・職場環境を整える。
 - ② 経験年数や職員のレベルに合わせた研修参加や資格取得を計画的に行う。
 - (2) 職員個々のスキルを把握し、職員同士が質を高め合える職場づくりに取り組む。
 - ① 定期的に認知症ケアの勉強会を実施し、情報共有・意見交換を行うことで統一したケアの提供に努める。
 - ② 多職種と連携し知り得た情報を職員間で共有し専門性のある知識を深めていく。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保する。
 - ① 年間の在籍率 98%以上を目指す。
 - ② 広報活動、待機者の現況把握を行い、入退居調整をスムーズに行う。
 - ③ 適切な介護度を見極めるために、適宜、区分変更を行う。
 - (2) 無駄な支出の削減に努める。
 - ① 食品や物品の使用状況を把握し、適切な使用と在庫管理を行う。
 - ② 経費削減について職員の意識付けに取り組む。
 - ③ 継続して節電・節水に努める。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を実施する。
 - ① 非常災害時を想定した実践的な避難訓練（垂直避難など）を行う。
 - ② 災害に備え備蓄食品や備品の管理を行い、職員にも周知する。
 - (2) 地域や関係機関との連携を密に行い、危機管理体制を強化する。
 - ① 運営推進会議や地域の総合避難訓練、清掃活動等へ参加し、関係機関や地域住民と協力し合える関係性を構築していく。

グループホームななつかたばみ

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 認知症ケアの知識向上に努める。
 - ① 計画的に施設内外部の研修へ参加する。
 - ② 伝達講習による情報共有や多職種との交流を通じて、知識を深める。
 - ③ 職員のスキルアップを目指し、資格取得を推進する。
 - (2) 職員個々の長所を生かし、生き生きと働ける職場環境の整備に努める。
 - ① 職員一人一人が意見を出し合い、意欲向上が図れるチームワークの構築に努める。
 - ② 有給休暇を取得し、リフレッシュし心身ともに健康な状態で就業できる職場環境を作る。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 在籍率の安定化、待機者の確保に努める。
 - ① 入居者の心身状態を把握し、関係機関と連携を図り早期対応に努める。
 - ② スムーズな入退居調整を行い、在籍率 98%以上を目指す。
 - ③ 広報活動を通じて事業所状況を発信し、待機者確保に努める。
 - (2) 運営に対する意識向上に努める。
 - ① 収支状況など事業所の現状を把握する。
 - ② 節電、節水及び備品を丁寧に扱い、経費節減に取り組む。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 非常災害時に現実的な行動が迅速に行えるよう体制を整える。
 - ① 事業継続計画に沿った訓練の実施及び情報の共有に努め、全職員が実践できるよう取り組む。
 - ② 地域や関係機関との連携を密にし、災害時に協力できる体制作りに努める。

グループホームゆうき

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 利用者のニーズに合った適切なサービスを提供する。
 - ① 情報収集を行い、個人の意向や思いに沿ったケアプラン作成に努める。
 - ② 入居者の状態に応じたケアが提供できるようケアの統一化を図る。
 - ③ 認知症ケアに関する研修などへ積極的に参加し、良質なケアの提供に繋げる。
 - (2) 職員の専門性を活かし、質の高いサービス提供を行う。
 - ① 資格取得や全職員が研修に参加できるよう計画を立て、個々の能力を伸ばせる職場作りを行う。
 - ② 中堅職員やリーダー職員の育成に努め、質の高いサービスの提供を行う。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した事業運営を目指す。
 - ① 広報活動を充実させ待機者の確保に努める。
 - ② 関係機関との連携を密に図り、入居調整をスムーズに行い在籍率 98% 以上を目指す。
 - (2) 経費削減を行う
 - ① 職員一人ひとりが経費削減に関心を持てるような取り組みを行う。
 - ② 業務の見直しを行い無駄が無いよう職員が意識を持って取り組む。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域住民と連携が図れる体制づくりに取り組む。
 - ① 地域住民を交えた非常災害時の協力体制を構築する。
 - ② 地域の防災訓練に参加し、非常時の体制強化を図る。
 - (2) 非常災害時に備え、職員の防災意識向上に取り組む。
 - ① 地震、火災総合訓練を年 5 回行う。
 - ② 全職員が訓練に参加できるよう計画し、防災意識を高める。

有料老人ホームあさくらの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) リスクマネジメント力を強化し、重大事故を未然に防ぐように努める。
 - ① 関係部署との連携により入居者の状態を共有し、収集したデータを基にケア方法を講じる。
 - (2) 入居者のニーズに応えられる職員教育に努める。
 - ① 職員全員が、事故対策や感染症対策などの研修を年2回以上参加する。
 - ② コミュニケーション能力を高め、入居者の要求に速やかに応えられることにより質の高いサービスの提供に繋げる。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 関係機関と密に情報共有を図ることにより、成果の出る活動を目指す。
 - ① 新規の入居者を獲得するため広報活動は月75件以上とし、待機者は常に3名以上確保する。
 - (2) 無駄な支出の削減に努める。
 - ① 食品や物品の過剰在庫を持たないよう月に一回はチェックを行う。
 - ② 適切な空調管理を行い、前年度水準を超えない使用を心掛ける。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 職員一人ひとりが入居者の安全確保を最優先できる体制を整える。
 - ① 施設の立地条件を把握し適切な対応が行えるよう事前に調査を行う。
 - ② 備蓄の管理、施設内の備品の整備
 - ③ 新型コロナウイルスなどの感染症の流行に備え、感染症発生を意識した予防対策を講じる。

有料老人ホーム ながはまの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 入居者への接遇マナーを徹底するとともに専門性も向上させる。
 - ① 研修へ積極的に参加し、職員個々の知識、技術の向上を図る。
 - ② 入居者の病状等を把握し、状態変化に適切に対応できるようにする。
 - (2) リスクマネジメントの向上、リスク管理に努める。
 - ① 定期的に話し合いの場を持ち、各自の状況を理解するとともに、意思の統一を図る。
 - ② 年2回の研修参加を目標とし、参加できない場合でも伝達講習を行うなど、学ぶ環境を整える。
- 2 予算と実績にブレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 広報活動での情報を精査・共有し、安定した事業運営を目指す。
 - ① 新規事業所への訪問と情報提供を積極的に行い、空床等を定期的に情報発信を行う。
 - ② 在籍97%を維持するよう、訪問件数を月70件以上、待機者を常に3名以上確保する。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 緊急時にそなえた実践的な訓練を実施する。
 - ① 地域とのつながりを維持し、自助共助を確立する。
 - ② 緊急時の対応についての確認作業を徹底していく。
 - ③ 物品の管理を徹底する。

有料老人ホームゆりぐるまの里

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 利用者とのコミュニケーションを積極的に図り、個々の希望を反映していくように取り組む。
 - ① 関連事業所と連携を図り、各職種での利用者情報を共有し、個々に応じたサービスの提供が受けられるよう支援する。
 - ② 看取りに対しての意向を定期的に確認し、利用者の希望に添えるように努める。
 - (2) 介護職員・相談員が、それぞれの仕事に対しての理解と責任を持ち、各自スキルアップできるよう努める。
 - ① 定期的に入居者の状況を把握し、未然に重症化を防ぐ手立てを講じる。
 - ② 年2回の研修参加を目標とし、参加できない場合は伝達講習を行うなど、学ぶ環境を整える。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 広報活動を計画的に行い、事業運営の安定を目指す。
 - ① 月40件以上の広報活動を実施し、各事業所の情勢や特色などを把握することにより効率的な活動を目指す。
 - ② 待機者を2名以上確保し、在籍97%を維持する。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 定期的な訓練以外でも、緊急時の対応が行えるよう環境を整える。
 - ① 可能な範囲での地域支援を行い、地域とのつながりを維持する。
 - ② 日頃から物品の保管場所や緊急時対応の確認作業を徹底する。

デイサービスセンターすみれ

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 居宅サービス計画書に基づき、適切なサービス内容の通所サービス計画を作成し実行する。
 - ① ご利用者とのコミュニケーションをとり、ニーズを的確につかむ。
 - ② 関係機関と情報共有し、利用者に必要なサービスを提供する。
 - (2) 職員の専門性を高める職員教育を行う。
 - ① いろいろな研修に積極的に参加し、専門的な知識・技術の習得に努める。
 - ② 偏った事故防止対策でご利用者の自由や尊厳を奪わないようにする。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 専門職との連携により身体機能の評価や環境整備、福祉用具の選定を適切に行い、介護事故を未然に防止する。
 - ① 他職種が連携し、身体機能の評価や環境整備を行う。
 - ② 定期的に福祉用具をチェックする。
 - (2) 利用者の健康状態維持に努め、安定した利用に繋げる。
 - ① 多職種を含め、職員間の連携を図り、統一したケアを行う。
 - ② 心身状態の観察と把握を行い、異常発見時の早期対応に努める。
 - ③ 手洗い・うがい・換気等の感染対策を徹底し、感染症予防に努める。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域や関係機関と情報共有し、地域の中で利用者が生活しやすい環境をつくる。
 - ① 地域との交流の場に参加し、地域のニーズを把握する。
 - ② 地域の防災訓練等に参加し、地域住民と協力し合える関係をつくる。
 - ③ 運営推進会議を活用し、地域のニーズを把握する。

認知症デイサービスセンターさくら

年度目標

- 1 ご利用者の尊厳や個別性に配慮した質の高いサービスを目指し、職種別、階層別で達成すべき目標を定め、専門性を高める職員教育をする。
 - (1) 居宅サービス計画書に基づき、適切なサービス内容の通所サービス計画を作成し実行する。
 - ① ご利用者の状態、状況を把握しニーズを的確につかむ。
 - ② 関係機関と情報共有し、利用者に必要なサービスを提供する。
 - (2) 職員の専門性を高める職員教育を行う。
 - ① 内外の研修に積極的に参加し、専門的な知識・技術の習得に努める。
 - ② 偏った事故防止対策でご利用者の自由や尊厳を奪わないようにする。
- 2 予算と実績にズレが生じないように予算管理を徹底し、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 専門職との連携により、身体機能の評価や環境整備、福祉用具の選定を適切に行い、介護事故を未然に防止する。
 - ① 他職種が連携し、予防的支援を実行する。
 - ② 定期的に福祉用具をチェックする。
 - (2) 利用者の健康状態維持に努め、安定した利用に繋げる。
 - ① 多職種を含め、職員間の連携を図り、統一したケアを行う。
 - ② 心身状態の観察と把握を行い、異常発見時の早期対応に努める。
 - ③ 手洗い・うがい・換気等の感染対策を徹底し、感染症予防に努める。
- 3 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練をし、緊急管理体制を強化する。
 - (1) 地域や関係機関と情報共有し、地域の中で利用者が生活しやすい環境をつくる。
 - ① 地域との交流の場に参加し、地域のニーズを把握する。
 - ② 地域の防災訓練等に参加し、地域住民と協力し合える関係をつくる。
 - ③ 運営推進会議を活用し、地域のニーズを把握する。

総合福祉ゾーン

天空の里

- ・ 総合福祉ゾーン天空の里 ……P72
- ・ 特別養護老人ホームそよ風 ……P73
- ・ 養護老人ホーム山吹 ……P74
- ・ ケアハウスさくら草 ……P75
- ・ 認知症デイサービスセンターかわせみ ……P76
- ・ デイサービスセンターこまどり ……P77
- ・ グループホームふくじゅ草の里 ……P78

総合福祉ゾーン天空の里

基本方針

総合福祉ゾーン天空の里は、嶺北地域で進める地域共生社会の実現に向けて、求められる福祉ニーズにお応えできる事業運営を目指してまいります。

また、近年頻発している自然災害に備え、地域との連携強化を図るとともに、より実践に近い防災・避難訓練を重ねることで、ゾーン全体の防災意識を高め予期せぬ事態に備えます。

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。

特別養護老人ホーム そよ風

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - ① 多職種連携で利用者個々へのアセスメントを実施し、介護方法の統一を図ると共に居室環境・福祉用具を見直すことで、重大事故を防止する。
 - ② Web を活用した研修会や勉強会へ参加し、個々のスキルアップを図る。
 - ③ 感染症 BCP の内容に沿った研修会、訓練を年1回以上実施し、感染症蔓延防止に向けた取り組みを継続する。
 - (2) 看取りケアに関する理解を深め、看取りケア体制を充実させる。
 - ① 看取りケアの勉強会や研修会に年1回以上参加する。
 - ② 看取り意向調査を年2回以上実施し、本人・家族の意向を確認する。
 - ③ 定期的に本人・家族へ個別説明を行い、看取りケアを推進する。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 運営目標を明確にし、着実に取り組み職員の経営意識向上を図る。
 - ① 入所稼働率 98%、短期入所稼働率 90%を目標に迅速な入退所調整を実施する。
 - ② 待機状況、申し込み状況等を分析し、広域的に広報活動を展開することで、常時5名以上の待機者を確保する。
 - ③ 運営に関する会議を毎月開催し、各職種が経営に関する分析を行い、対策を講じる。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 職員の非常災害に関する危機意識及び実践力の向上を図る。
 - ① 防災計画に沿った訓練を実践し、非常時の対応について全職員へ周知する。
 - ② 防災マニュアルや訓練内容について定期的に見直しを図る。
 - ③ 地域と合同で防災・防犯訓練を実施し、非常時の役割分担等について相互に確認し、連携を強化する。

養護老人ホーム 山吹

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する
 - (1) ケア内容の充実を図り、4大目標の実現に向けた取り組みを継続する。
 - ① 利用者の病状、身体機能、生活環境等の情報を多職種間で共有することで、必要なサービス、福祉用具等を検討し個別ケアを提供する。
 - ② 懇談会にて利用者ニーズを把握し、行事やサービスの充実に繋げる。
 - ③ 事故発生時の分析を多職種連携で実施し、個々に応じた適切な再発防止策、予防策を周知することで重大事故を防止する。
 - (2) 看取りケア体制を整備する。
 - ① 看取りケアについての意向調査を年2回以上実施する。
 - ② 本人、家族へ看取りについて分かりやすく説明し、不安の軽減を図る。
 - ③ 病状やケア内容について関係機関と密に連携する。
 - (3) 職員の経験等に応じた計画的な人材育成を推進する。
 - ① WEB・内部・外部研修へ各職員が年1回以上参加する。
 - ② 個々の能力や経験に応じて個別指導を行い、実践力の向上を図る。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す
 - (1) 経営に関する意識付けを行う。
 - ① 定期的に運営に関する会議を開催し、収入・稼働状況・経費について各職種で分析する機会を設け、対策を講じる。
 - (2) 運営状況を常に意識し、安定した稼働を維持する。
 - ① 稼働目標98%を実現できるよう、行政機関等を中心に定期的に広報活動を実施し、待機者を確保する。
 - ② 定期的に待機者へ連絡を入れ、状況を確認し迅速な入所に繋げる。
 - ③ 病状管理を徹底し、異常の早期発見・早期対応を行う。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 計画に基づいた訓練を実施し、職員の対応力を向上させる。
 - ① 訓練を通じて、非常時の行動や対応方法を周知する。
 - ② 定期的にマニュアルやBCPの見直しを図る。
 - ③ 地域と合同で防災・防犯訓練を実施し、非常時の役割分担等について相互に確認することで連携を強化する。

ケアハウス さくら草

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
 - (1) 人材育成への取り組みや職員の人材確保に努める。
 - ① 研修参加や資格取得を促進し、職員のスキルアップに繋げることで質の高いサービスを提供する。
 - ② 多職種で共同し統一したサービス提供を行う。
 - (2) 利用者が健康的な生活を営むことができるサービスを提供する。
 - ① 常に利用者の視点に立ち、サービスのあり方を考えていく。
 - ② 口腔内の清潔保持や口腔衛生管理に努め、肺炎予防に努める。
 - ③ 利用者の体調変化など、細かな異変に早めに対応することで重症化を防ぐ予防的なケアを実践していく。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 関係機関との連携を密に行い、安定した稼働率を目指す。
 - ① 待機者の確保の充実と、スムーズな入退居調整を行う。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図り、重大事故を未然に防げるよう環境を整える。
 - ① 多職種間で多角的に意見を出し合い、環境面を見直すことで、事故の再発防止に努める。
 - ② ヒヤリ・ハットの分析や気づきで重大事故を未然に防いでいく。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 防災・防犯訓練を重ね、有事に備えた実践を進める。
 - ① 地域住民とともに、より実践に近い形で防災訓練をおこない、防災意識を高める。
 - ② 日頃から地域との交流に注力し、地域住民に親しみと関わりを持っていただける事業所の運営を目指す。

認知症デイサービスセンター かわせみ

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
 - (1) 職員の資質向上と人材育成に取り組む
 - ① 認知症高齢者のケアに必要とされる資格取得を目指す。
 - ② 内部・外部研修に参加し、職員個々の知識や技術向上に努める。
 - ③ 事業所内での伝達講習や勉強会を充実させる。
 - (2) 職員間の信頼関係を築き、人材の安定した事業所を目指す。
 - ① 職員が気分転換を図れるよう、有給休暇の取得を推進する。
 - ② 職員会等を活用し、スタッフが提案しやすい意見交換の場を持つ。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 利用者の健康管理に努め、安定したサービス利用に繋げる
 - ① 他事業所と連携し、利用者の心身状態の観察と把握に努めることで、異変の早期発見・対応に繋げる。
 - ② 適切な口腔ケアの実施と確認を行い、誤嚥性肺炎を予防する。
 - (2) 適切なニーズを把握し、個々に即したサービスを提供する。
 - ① 各関係事業所と連携し、情報を共有する中で利用者のニーズを捉え、個々の状態に適した通所介護計画書を作成する。
 - ② 全スタッフが、通所介護計画書を把握し、統一したケアを実施する。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 災害発生時に備え、防災に関する地域の取り組みや現状の把握に努める。
 - ① 運営推進会議や地域主催の防災訓練に参加する中で、地域住民との関係を築き、災害発生時の協力体制を整備する。
 - ② 天空の里内の事業所と共同し、交通安全運動や清掃活動など地域活動に参加する。

デイサービスセンター こまどり

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
 - (1) 職員個々がケア技術の向上に努め、質の高いサービスを提供する。
 - ① 4大目標で掲げる専門的知識を活かしたケアを提供する。
 - ② 利用者個々の状態について、他職種と連携し情報共有を行う。
 - ③ 認知症ケア研修やノーリフティングケア研修など専門的研修に参加する。
 - (2) 働きやすい職場環境の整備を行う
 - ① 計画的に有給休暇を取得し、ワーク・ライフ・バランスを推進する。
 - ② 業務内容や業務分担の見直しを適宜行い効率化を図る。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 積極的な利用に繋がる魅力ある事業所を目指す。
 - ① 個々のニーズに沿ったレクリエーションを提供し、活動意欲を高める。
 - ② 多職種と協力し、ご利用者個々の興味や要望について情報収集を行う。
 - (2) 事故防止、危機管理に努める
 - ① ヒヤリハット報告などの情報から、安全で安心して過ごしていただける生活環境の見直しを適宜行う。
 - ② ご利用者について、日々の状態を関係機関や事業所とこまめに情報共有を行うことで、異変の早期発見・対応に繋げる。
- 3 地域と連携強化を図り、来るべき自然災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 地域との関わりを深め、危機管理対策に備える。
 - ① 地域行事の参加やボランティアの受け入れを積極的に行い、交流の場を確保する。
 - ② 嶺北地域の行う町ぐるみの防災訓練に参加し、地域住民や行政機関、嶺北中央病院との連携強化を図る。
 - ③ 天空の里で想定される浸水・土砂災害を想定した実践に近い防災訓練を実施する。

グループホームふくじゅ草の里

年度目標

- 1 人材育成と教育の充実を図り、利用者満足度の高いサービスを提供する。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - ① 介護福祉士や介護口腔ケア推進士など資格取得を積極的に支援し、専門的な知識を培う。
 - ② OHAT の評価や骨密度測定の結果をもとに個々の状態を把握し、多職種間で検討したケア内容をケアプランに反映していく。
 - (2) 看取りケアの体制を整える。
 - ① 本人の意志を尊重したケアの方針決定に対する支援に努めていく。
 - ② プロセスを重視し、看取り期における家族への情報提供を的確および丁寧に行い、信頼関係を築いていく。
- 2 経営に対して常に意識し行動することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 運営目標を明確に示し、管理者が常に目標を意識し行動することで運営の安定化を図る。
 - ① 積極的な広報活動により、地域の関係機関と密な関係性を保ちながら的確な判断でスムーズな入退居の調整を図る。
 - ② 稼働率 98%以上の目標を継続し、支出においても経費削減を実践していく。
- 3 地域との連携強化を図り、来るべき自然災害に備え危機管理対策を構築する。
 - (1) 実践を意識した避難訓練(特に水害・土砂災害時)に取り組むとともに、BCP を駆使した業務継続に向けた実践を進める。
 - ① BCP について、計画の内容と重要性を全スタッフが理解し行動できるよう、継続的な教育・訓練を実施していく。
 - ② 自然災害の発生リスクが年々高まっている現状に沿った BCP を定期的に見直し、改善することで環境変化に対応していく。

総合福祉ゾーン やだけの里

- ・総合福祉ゾーンやだけの里 ……P80
- ・特別養護老人ホーム矢野 ……P81
- ・小規模多機能型居宅介護響 ……P83
- ・デイサービスセンター彩 ……P85
- ・居宅介護支援事業所蒼 ……P86

総合福祉ゾーン やだけの里

基本方針

総合福祉ゾーンやだけの里は、各事業所が安定した運営を行うため、目標を数値化し、計画的な事業運営を行います。

質の高いサービスの提供と、利用者や家族に寄り添った関りを通し、皆様に安心した生活を送っていただけるように努めます。また、災害対策の強化を行い、地域との連携をより深め、信頼される福祉施設の運営に努めます。

年度目標

- 1 働きやすい職場環境づくりや職員教育の充実を図る。
- 2 4大目標達成のために各職種が連携し、利用者個々のレベルに応じた質の高いサービスの提供を行う。
- 3 徹底した感染症対策と、非常災害に対する体制強化に努める。
- 4 地域との結びつきを強化するため、地域へ積極的に出向き、地域住民との連携を継続的に行う。

特別養護老人ホーム 矢野

年度目標

- 1 働きやすい職場環境づくりや職員教育の充実を図る。
 - (1) 労働環境の整備。
 - ① 職員個々が有給休暇の管理を行い、計画的に取得をする。
 - ② 定期的な会議を実施し、業務改善を行い働きやすい環境を整備する。
 - (2) 教育指導の充実。
 - ① 新人研修及び現任研修、ZOOM や動画の研修を活用し、職員の知識と技術向上に努める。
 - ② 職員個々が研修で学んだ知識や技術の伝達講習を行い、職員間の資質向上に繋げる。
 - ③ 特定技能生の学習時間を確保し、日本語力の向上、介護知識や技術の習得を図る。
- 2 4大目標達成のために各職種が連携し、利用者個々のレベルに応じた質の高いサービスの提供を行う。
 - (1) 4大目標の取り組み推進。
 - ① ノーリフティングケアを推進し、入居者・職員共に安心安全で安楽な介護を行う。
 - ② 骨密度測定の結果と利用者の身体機能や行動において、危険に対する共通認識を持ち、生活環境を整えることで骨折事故の予防に努める。
 - ③ 口腔ケア推進士を増員し、口腔ケア推進士が中心となって口腔衛生等の管理を計画的に実施し、誤嚥性肺炎を予防する。
- 3 徹底した感染症対策と、非常災害に対する体制強化に努める。
 - (1) 職員個々による体調管理の徹底。
 - ① 職員が感染源にならぬよう、スタンダードプリコーション（標準予防策）を徹底し、健康管理に努める。
 - (2) 非常災害に向けての体制強化。
 - ① 年間計画に沿った、非常災害時訓練を実施し、職員個々に訓練内容の周知を行う。中でも土砂災害に対する訓練には重点を置き、非常時に備える。
- 4 地域との結びつきを強化するため、地域へ積極的に出向き、地域住民との連携を継続的に行う。
 - (1) 地域住民との連携。

- ① 地域活動への積極的な参加を行い、地域住民との協力体制を強化する。
- ② 地域の方々によるボランティア活動の受け入れを再開し、交流を図る。

小規模多機能居宅介護 響

年度目標

- 1 働きやすい職場環境づくりや職員教育を図る。
 - (1) 組織力を向上させる。
 - ① 職員個々のスキルや経験から役割や責任を明確にし、情報を共有、意見交換することで、チームケア力を高める。
 - ② 計画的に有給取得を行うことにより、「プライベート」と「仕事」の調和を保つ。
 - (2) 職員教育の充実。
 - ① 職員の能力に応じた研修計画を立案し、個々の知識や技術の向上に繋げる。
 - ② 特定技能生の学習時間を確保し、日本語力の向上、介護知識や技術の習得を図る。
- 2 4大目標達成のために各職種が連携し、利用者個々のレベルに応じた質の高いサービスの提供を行う。
 - (1) 自立支援に向けて本人や家族が望む、安心安全なサービスを行う。
 - ① アセスメントや評価を行う事で、利用者の課題を職員個々が捉える力を養う。
 - ② ご家族や各関係機関と連携を密にすることで、迅速に安全に対応していく。
 - ③ ゾーン内の各職種とも相談し、助言を受けることでケアの質を高めていく。
- 3 徹底した感染症対策と、非常災害に対する体制強化に努める。
 - (1) 感染症対策の徹底。
 - ① 職員が感染源とならないように健康管理に努める。
 - ② 環境整備や標準感染予防対策を徹底する。
 - (2) 非常災害時の体制強化。
 - ① 災害時に迅速に対応できるようゾーン内の定期訓練に参加する。
 - ② 緊急時の連絡体制、避難場所等をご家族と共有する。
 - (3) 送迎時の安全運転の徹底。
 - ① 適切な送迎計画をたて、交通法規を厳守し、常にゆとりのある運転を行う。
- 4 地域との結びつきを強化するため、地域へ積極的に出向き、地域住民との連携を継続的に行う。
 - (1) 地域連携と情報共有。
 - ① 運営推進会議で活動内容や地域の情報を収集、共有する。

- ② 積極的に地域活動へ参加し、地域との繋がりを継続する。

デイサービスセンター彩

年度目標

- 1 働きやすい職場環境づくりや職員教育を図る。
 - (1) 業務改善を積極的に行う。
 - ① それぞれの立場や人格を尊重し共通目標を掲げる。
 - ② 自分の役割を明確にし、職務を果たす。
 - ③ 定期的に職員会の場を持ち、業務の効率化を図る。
 - (2) 職員のスキルアップを図る。
 - ① 外部、内部問わず、積極的に研修に参加する。
 - ② 研修内容を職員間で情報共有し、意見交換を行う。
- 2 4大目標達成のために各職種が連携し、利用者個々のレベルに応じた質の高いサービスの提供を行う。
 - (1) 利用者の身体機能維持、向上を目指す。
 - ① ケアプランをもとに個々の能力に応じた個別機能訓練を実施する。
 - ② ゾーン内の各職種にも助言を受けケアの質を高める。
 - ③ ケアマネやご家族を通じ満足度を知ることによってサービス内容を見直す。
- 3 徹底した感染症対策と、非常災害に対する体制強化に努める。
 - (1) 様々な災害時の対応の周知を行う。
 - ① 災害時の送迎方法、送迎場所など、家族や関係事業所を通して定期的に確認する。
 - (2) 感染症対策の徹底。
 - ① 職員が感染源とならないように健康管理に努める。
 - ② 環境整備や標準感染予防対策を徹底する。
 - (3) 送迎時の安全運転の徹底。
 - ① 適切な送迎計画をたて、交通法規を厳守し、常にゆとりのある運転を行う。
- 4 地域との結びつきを強化するため、地域へ積極的に出向き、地域住民との連携を継続的に行う。
 - (1) 地域との連携を強化する。
 - ① 利用者の住む近隣住民とも関りを持ち、信頼関係を構築する。
 - ② 地域のボランティアや幼稚園、保育園等と交流の機会を持つ。

居宅介護支援事業所 蒼

年度目標

- 1 働きやすい職場環境づくりや職員教育の充実を図る。
 - (1) 外部研修や法人内で行われる内部研修への参加を行い、資質の向上に努める。
 - (2) 有給休暇の管理を行い、計画に基づいた取得を行う。
- 2 4大目標達成のために各職種が連携し、利用者個々の状態に応じた質の高いサービスの提供を行う。
 - (1) 転倒や骨折予防に対するリスクを予知したアセスメントを実施し、ケアプランの目標に繋げる。
 - (2) 専門医や各事業所の専門職と連携し、利用者の思いを尊重しながら、在宅生活の継続が行えるよう支援する。
- 3 徹底した感染症対策と、非常災害に対する体制強化に努める。
 - (1) 非常災害時、利用者個々が安心安全な生活が送れるよう、避難場所の確認や周知を徹底する。
 - (2) 地域で行われる防災訓練や会議に積極的に参加する。
 - (3) 近隣事業所等の感染状況を日ごろから収集することや、感染源とならないために感染予防対策をした訪問に努める。
- 4 地域との結びつきを強化するため、地域へ積極的に出向き、地域住民との連携を継続的に行う。
 - (1) 地域ケア会議や地域包括支援センター主催のミーティング等、積極的に参加し情報共有に努める。
 - (2) 地域行事や防災訓練等に参加し交流を深める。

赤とんぼの里

- ・ 赤とんぼの里 ……P88
- ・ ケアハウスアゼリア（特定） ……P89
- ・ トマト指定通所介護センター ……P91
- ・ トマト指定居宅介護支援センター ……P93

赤とんぼの里

基本方針

法人理念、運営方針の下、利用者、家族、地域の皆様に信頼していただける事業所を目指し、根拠に基づいた質の高いサービスの提供、職員個々のレベルに応じた人材育成に努めてまいります。

また、BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組み、実践力の向上に努めます。

さらに、広報活動や実習生の受け入れ等をつうじて、地域社会の福祉の充実・発展に貢献できるよう積極的に活動してまいります。

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、データを活用した他職種連携、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。

ケアハウスアゼリア（特定施設入居者生活介護）

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、データを活用した他職種連携、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた、意識、知識、技術の向上を図り、専門性を高める。
 - ① WEB 研修を含め、内部、外部研修へ積極的に参加出来るよう、計画を立て、専門的な知識、技術を習得し、自らの役割を自覚する。
 - ② 伝達講習をととして、研修内容を職員間で共有する。
 - (2) データを活用した他職種の連携に努め、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービス提供に努める。
 - ① 一人ひとりに合ったケアを行うため、年2回の OHAT と骨密度測定の実施等によるデータを活用し、多職種で情報を共有し質の高いサービスの提供に努める。
 - ② 担当者会議、ケアカンファレンスをととして、携わる職員全員がリスクを把握し統一したケアを行う。
 - ③ 事故やヒヤリハットの集計結果から、未然に対策を講じることで、類似する事故の再発防止に努める。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 運営に対する意識向上に努める。
 - ① 毎月の運営会議で事業進捗状況に対する評価と課題から今後の取り組みに繋げ、収支の情報を共有することで経営意識を向上し目標の達成に努める。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。
 - (1) 働きやすい職場環境作りに取り組む。
 - ① 有休管理表に基づき、計画的に有給休暇を取得する。
 - ② 各種休暇制度を利用し、従業員の離職防止や定着率の向上に繋げる。
 - ③ 年2回の職員面談をととして職員の状態把握をする。
 - (2) Garoon、InCircle を活用し、委員会活動や災害時情報を職員間で共有し、意識統一に努める。

- 4 B C Pに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) 災害対策、感染防止対策を講じる。
 - ① 自治会との合同避難訓練等をつうじて、ハザードマップ、マニュアルを周知する。
 - ② 平時からの周知、研修、訓練をとおして災害時の対応内容を確認する。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
 - (1) 広報活動を通じて、事業所の取り組み、空床状況を発信し、地域ニーズの把握し、待機者確保に努める。
 - (2) 福祉施設への関心が高められるよう、実習生を積極的に受け入れる。

トマト指定通所介護センター

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、データを活用した多職種連携、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 職員の個々のレベルに合わせた教育を行い、スキルアップを目指す。
 - ① 職員一人ひとりに必要な研修を受けられるよう計画し、各自年1回以上参加する。
 - ② 研修に参加した職員は伝達講習を行い、伝達した内容を共有し周知する。
 - (2) データに基づいた計画書の作成を行う。
 - ① 事業所内の担当者会議やカンファレンスにて情報収集を行う。
 - ② ケアマネジャーが開催する担当者会議に出席し、情報の共有を行う。
 - ③ 多職種連携にて情報収集を行い、実現可能な個別通所介護計画を作成する。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 職員全員がよりよい事業運営を目指す。
 - ① 事業計画を視認性の良い所に貼り意識を高める。
 - ② 朝礼などで事業所間での情報の共有を随時行う。
 - ③ 利用者の意向に合わせて臨時利用、振替利用を適宜提案する。
 - ④ 行事等をより多くの利用者を楽しんでいただけるよう開催をアピールする。
 - (2) 職員一人ひとりが個人目標を定め、半年に1回評価を行う。
 - (3) 経費削減に努める。
 - ① 車椅子や手すり等の点検を毎日行い、丁寧に扱う。
 - ② 軽微な備品や物品の破損は早期に報告し、事業所内で修理する。
 - ③ 節電や節水に努める。
- 3 各種休暇制度の促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。
 - (1) 有給休暇取得の年間計画を立て、計画的取得に努める。
 - (2) 業務の電子化・簡素化を進める一方で、電子業務の不得意な職員をサ

ポートし、働きやすい雰囲気を作る。

- 4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) 被災状況等を具体的に想定した避難訓練を実施する。
 - (2) 年1回以上、感染症の研修や訓練を行い、全職員へ周知する。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
 - (1) 実習生やトライやるウィークなどの受け入れを積極的に行い、地域に貢献する。
 - ① 実習生が、行事や広報活動をつうじて通所介護への理解を深められるよう支援する。
 - ② 地元の地域中学生が取り組むトライやるウィークを積極的に受け入れる。

トマト指定居宅介護支援センター

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、データを活用した他職種連携、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 法人内やゾーン内で開催される内部研修や外部・Web研修に積極的に参加し、介護支援専門員としてのスキルアップと知識や技術向上に努める。
 - (2) 利用者の状態や取り巻く状況に関する情報を収集・分析し、事業所全体のケアマネジメントの質の向上に努める。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 毎月開催される運営会議に参加し、事業の進捗状況を確認することで、運営目標の達成に向けて意識し行動する。
 - (2) 定期的に広報活動を行い、安定した収入を維持できるよう、新規利用の受け入れ体制を整える。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。
 - (1) 有給休暇の計画的取得に努める。
 - (2) 電子決裁システムを活用し、業務の効率化に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) BCPに対する意識を高めるとともに、緊急時に備えて、日頃から利用者台帳等を整理する。
 - (2) 訪問時に感染予防に関するリーフレットを配布し、利用者に対して感染防止の情報提供を行い、感染症対策に努める。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
 - (1) 龍野西圏域ケア会議や行政主催の情報共有の場に積極的に参加する。
 - (2) 広報活動を通じて事業所外部との連携を図ることで、新たな地域ニーズの発見や社会資源の開発への貢献に努める。

特別養護老人ホーム 安寿の里

・ユニット型特別養護老人ホーム安寿の里 ……P95

ユニット型特別養護老人ホーム 安寿の里

基本方針

特別養護老人ホーム安寿の里は、ご利用者やご家族が住み慣れたこの地域とつながり、安心して共生できる施設を目指します。

また、地域での福祉施設としての役割を担うため、人材確保や育成へ注力して質の高いサービスの提供を行うとともに非常災害時の危機管理体制に対する整備と安全面の強化へ取り組みます。

年度目標

- 1 ご利用者のご家族の生活を支え、最後までこころ安らげる施設となる。
 - (1) ご家族との情報共有及び連絡を密に行い、信頼関係を構築する。
 - (2) 客観的なデータをもとに状態を把握したうえで、看取りケアを推進する。
 - (3) 看取りケアの意義を理解し、ご利用者とそのご家族が最後までこころ安らげるよう、最善のケアを提供する。
- 2 稼働率維持と計画的な人材の確保・育成により、安定した運営に取り組む。
 - (1) 定期的に広範囲の営業活動を行い、稼働率の維持（長期入所 97%、短期入所 80%以上）と継続した利用を確保する。
 - (2) 多様な求人活動や会社説明会を月 1 回以上実施し、施設見学者の動員と求職応募に繋げる。
 - (3) 既存学校へ出向き求人活動をすることにより、学卒者の獲得に努める。
 - (4) 特定技能職員の日本語教育等を充足させるとともに、研修・勉強会への参加や自己研鑽に励み、知識・技術の向上に努める。
- 3 防災・危機管理等の対策を充足させ、安全性を強化する。
 - (1) 原子力災害、風水害に対し、災害発生時を想定した実践的な訓練を年 3 回以上実施する。また、必要に応じたマニュアルの見直し等を行う。
 - (2) 地域の防災訓練に積極的に参加するとともに、災害備品、備蓄食品の管理を行い、非常時に備える。
 - (3) 業務継続計画を職員に周知し、災害発生時の対応方法を共有する。

新居浜事業所

- ・ 新居浜事業所 ……P97
- ・ 小規模特別養護老人ホームつばき ……P98
- ・ グループホームけやきの里 ……P99
- ・ グループホームあかがね ……P100
- ・ グループホームしおさい ……P101

新居浜事業所

基本方針

新居浜事業所は、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、多職種が連携し、質の高いサービス提供に努めます。また、地域に信頼される福祉施設となるよう安定した事業運営を目指します。

年度目標

- 1 思いやりを大切にし、誰もが安心できるサービスを提供する。
- 2 運営目標を明確にすることで、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
- 3 計画的な防災・防犯訓練を実施し、危機管理体制を強化する。

小規模特別養護老人ホームつばき

年度目標

- 1 思いやりを大切にし、誰もが安心できるサービスを提供する。
 - (1) 優しく丁寧なケアを提供する。
 - ① 多職種協同で個々に応じたケアプランを立案し、個別ケアを実践する。
 - ② 病状、身体機能に関する情報を職員間で共有し、個々に適した環境設定、福祉用具の活用、介護方法の見直し等を図ることで重大事故を防止する。
 - (2) 利用者・家族が安心できる看取りケアを実践する。
 - ① 利用者・家族の看取りに関する意向調査を年2回以上実施する。
 - ② 職員間で看取りの方針やケア内容について共通認識を持ち、意向に沿ったケアの提供を目指す。
 - ③ 勉強会や研修会に年1回以上参加し、看取りに関する知識を習得する。
- 2 事業目標を明確にすることで、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 目標稼働率97%を念頭に、運営会議を開催し収支状況を把握する。
 - ② 稼働向上・経費削減に向け、各職種で分析し対策を講じる。
 - (2) 安定した稼働を維持し、
 - ① 多職種連携により入所者の病状把握に努め、早期対応を図る。
 - ② 福祉施設を中心に計画的に広報活動を実施し、ニーズの把握に努める。
 - ③ 月2回待機者数情報等を関係機関に発信し、待機者を募る。
 - (3) 人材を確保し、教育を充実させる。
 - ① 求人誌の発行や就職説明会等、人材確保の取り組みを継続する。
 - ② WEBを活用した勉強会、研修会へ年1回以上参加する。
- 3 計画的な防災・防犯訓練を実施し、危機管理体制を強化する。
 - (1) 非常時の充実を図り、事業継続に向けた取組みを実施する。
 - ① 年間計画に沿った訓練を実施し、非常時の対応を職員に周知する。
 - ② 職員教育のための研修会を開催し、防災に対する危機意識を高める。
 - ③ BCP、マニュアルを見直す機会を設ける。

グループホームけやきの里

年度目標

- 1 思いやりを大切にし、誰もが安心できるサービスを提供する。
 - (1) 優しく丁寧なケアを提供する。
 - ① 認知症を理解し、同じ目線に立った生活支援を行う。
 - ② 事故を未然に防ぎ安心した生活が送れるよう、利用者の小さな変化に気づき対応出来る職員の育成に努める。
 - (2) 利用者、家族が安心できる看取りケアの充実を図る。
 - ① 利用者が最期まで施設での生活が送れるように、チームで寄り添った支援ができるように努める。
 - ② 利用者、家族の思いを把握し、意向に沿ったケアを提供する。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 収益について理解し、節水や節電、物品を丁寧に扱うほか、日々の環境整備に努める。
 - ① 業務内容、物品の取り扱い方法などを見直し、業務改善に取り組む。
 - (2) 利用者の健康管理に努め、安定した事業運営を目指す。
 - ① 利用者の日々の健康管理に努める。
 - ② 関係機関との情報共有を図り、待機者の確保に努める。
 - ③ スムーズな入居調整を行い、在籍率 98%を目指す。
- 3 計画的な防災・防犯訓練を実施し、危機管理体制を強化する。
 - (1) 計画に沿った訓練の実施、連絡体制を把握する。
 - ① 繰り返し訓練を実施することで、防災・防犯への意識を高める。
 - ② いざという時の行動や連絡の方法を身に着け、災害時に備える。
 - ③ 災害時に協力体制が取れるように、日頃から地域との関係を構築する。

グループホームあかがね

年度目標

- 1 思いやりを大切にし、誰もが安心できるサービスを提供する。
 - (1) 利用者の意思を尊重し、常に思いやりを心掛け、安心していただけるケアを提供する。
 - ① 笑顔やゆとりのある声掛けを意識し、利用者や家族にとって安心、信頼していただける関係性を築く。
 - ② 利用者や家族の意向に沿った対応を心掛け、個々に合わせたケアを提供する。
 - (2) 必要な資格取得や研修を行うことで、介護の質の向上に努める。
 - ① 計画的に研修へ参加し、職員個々の知識やスキルアップに努める。
 - ② 能力や経験年数に応じて、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指す。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 年間稼働率 98%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 稼働率や入退居時等の情報共有を行い、職員 1 人 1 人が経営意識を高める。
 - ② スムーズな入退居調整を行うため、待機者を常に確保するよう努める。
 - (2) 利用者の健康管理に努める。
 - ① 利用者の病状把握し、医師や看護師と連携を図り早期対応に努める。
 - ② 家族とこまめに情報共有を行い、意向に沿った対応を行う。
 - (3) 働きやすい職場環境づくりに取り組む。
 - ① 年間 5 日以上の有給取得を行う。
 - ② 職員間で話し合える場を作り、意見交換が行いやすい職場環境を目指す。
- 3 計画的な防災・防犯訓練を実施し、危機管理体制を強化する。
 - (1) 定期的に訓練を行い、有事の際に的確な行動ができるよう努める。
 - ① BCP を用いた訓練を実施し、職員が非常災害時の役割を把握して、迅速な対応ができるように取り組む。

グループホーム しおさい

年度目標

- 1 思いやりを大切にし、誰もが安心できるサービスを提供する。
 - (1) 優しく丁寧なケアを提供する。
 - ① 適切な言葉遣いや尊厳のあるサービスを提供する。
 - ② 職員間で情報交換や情報共有を行い、統一したケアの提供に努める。
 - ③ WEB 研修等を通じて、認知症や高齢者の理解を深める。
 - (2) 利用者、家族が安心できる看取りケアの充実を図る。
 - ① 協力医と連携し、利用者や家族が安心できる支援を提供する。
 - ② WEB 研修などを活用し、実践的な看取りケアの充実を目指す。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 目標稼働率 98%を目指し、運営会議で収支状況について把握する。
 - ② 毎月の支出状況について分析し、経費削減に努める。
 - (2) 待機者の確保、利用者の病状管理を徹底する。
 - ① 広報活動を行い、各事業所と待機者の情報交換や共有を図る。
 - ② 急な入退居に対応出来る様、待機者確保に努める。
- 3 計画的な防災・防犯訓練を実施し、危機管理体制を強化する。
 - (1) 継続的に訓練を実施する事で、咄嗟の状況に対応出来る様になる。
 - (2) 防災に関する研修を実施し、危機管理意識の向上に努める。

専修学校 香南学園

・専修学校 香南学園

・・・P103

専修学校 香南学園

基本方針

専修学校香南学園は、外国人留学生を積極的に受け入れ、確かな知識と技術を身につけ、介護福祉士国家試験全員合格を目指す。

年度目標

- 1 国家試験合格に向けた適切な指導を行う。
 - (1) JLPT の N1・N2 合格を目標に、総合的な日本語能力の向上を図る。
 - (2) 国家試験対策に注力し、得点力の向上を目指す。
 - (3) 教職員の資質向上のため自己研鑽に努め、研修への参加を促進する。
- 2 生活支援のため環境の充実を図る。
 - (1) ルールを順守し、規律正しい生活ができるよう指導する。
 - (2) 適切な在留管理を行う。
 - (3) 学生の心身の健康管理、安全管理を行う。
 - (4) 授業の質の向上のため、学生による授業評価を実施する。
- 3 地域と協働した教育の推進を図る。
 - (1) 特別授業を通し、地域に貢献できる学校を目指す。
 - (2) 学生の主体性を重視した防災訓練を実施する。
 - (3) 地域住民と積極的に交流を図る。

特別養護老人ホーム おおいずみの里

・特別養護老人ホームおおいずみの里 ……P105

特別養護老人ホームおおいずみの里

基本方針

特別養護老人ホームおおいずみの里は「入所者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重し今までの暮らしが継続できるよう」質の高いサービスを提供します。また、地域住民や関係機関と連携し地域に根ざした施設を目指し安定した事業運営ができるよう努めます。

年度目標

- 1 4大目標の取組を推進し質の高いサービス提供を目指す
 - (1) 利用者の心身の状態を把握し、職員間で情報の共有に努める。
 - (2) ケアの目的を理解し、介護分野の生産性の向上を図る。
 - (3) アウトカム評価（ケアを行った結果どうなったか）を重視したサービスの提供を行う。
 - (4) 最期までその人らしく生活が送れるよう看取りケアの充実を図る。
- 2 事業運営の安定と地域に根差した施設を目指す
 - (1) 入所稼働率 98%、ショートステイ稼働率 90%を目標に定め、職員個々に理解、徹底を図り安定した事業運営に取り組む。
 - (2) 地域の福祉ニーズを把握するとともに、継続的に広報活動を展開し待機者の確保に努める。（月広報件数 110 件）
 - (3) 職員個々がコスト意識を高め経費削減に取り組む。（前年比－3%）
- 3 福祉のプロフェッショナルの育成と職員の定着を図る
 - (1) 自己学習のための支援の仕組みを構築し、資格取得に取り組む。
 - (2) 専門性、組織性、社会性、倫理性を考慮した研修会の実施（年 4 回）
 - (3) リーダー層の育成に取り組む。
 - (4) 良好なコミュニケーションのもと業務を行える環境作りに取り組む。
 - (5) 働きがいのあり、魅力ある職場づくりに取り組む。（離職率 9%以下）
- 4 防災と危機管理対策の構築を図る
 - (1) 地域や公的機関と連携し、災害に対応できる体制の構築に努める。
 - (2) 福祉避難所の開設と運営が迅速に行えるよう訓練を実施する。（年 3 回）
 - (3) 感染症や災害発生時に継続的にサービス提供できる体制を構築する。

